昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和54年8月15日発行（毎月1回15日発行通巻第118号）

バドミントン 8

日本バドミントン協会　The Badminton World　No.118 1979



あなたは未来派（カーボン）？
頑固派（ウッド）？
現実派（スチール）？

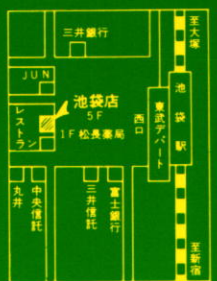


●年中無休
●営業時間
AM 9：00～PM 9：00

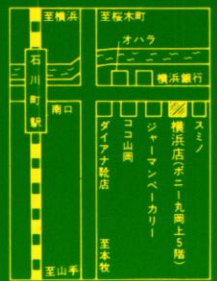
ラケットショップ元町



●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-400-7390



●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-988-0215



●横浜店 テニス・バドミントン
☎045-651-2020

バドミントン界 8

❷
第29回全日本実業団選手権大会
ヨネックス9年ぶり2度目

❹
女子団体
サントリー4連勝

❻
男子シングルス
銭谷欽治2年ぶり4度目

❽
女子シングルス
湯木博恵3年ぶり7度目

❿
男子ダブルス
池田信孝・尾崎幹雄初優勝

⓬
女子ダブルス
徳田敦子・高田幹子3連勝

⓮
年齢別単複
渡辺直人単複に優勝

⓰
われらのクラブ
納会要員の活躍華々しく

㉘
トマス・カップ観戦記／渡辺武司
バドミントン王国を訪ねて

㉚
シルバーボウル国際大会を観戦して
銭谷選手　大熱戦の連続

㉝
すい星・山本美津子、関東を制す
西山時代いよいよ到来か

㊳
〝部誌〟「しゃとる」刊行によせて
笑い、怒り、喜び、悲しんだ1年間

㊸
海外トピックス
世界一楽しい歯医者さん(ほか)

㊽
読者と編集者
新刊のご案内

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇表紙・本文中写真撮影＝赤星三樹（使用カメラ/ニコンFM　レンズ/NIKKOR　20/3.5, 50/1.4, 200/2）
◇今月の表紙＝全日本実業団選手権で3年ぶりに女王の座に返り咲いた湯木博恵

第29回全日本実業団選手権大会

ヨネックスの優勝は、最後まで主力を温存させた大場・後藤の活躍が勝因の第1。

男子団体優勝 ヨネックス 9年ぶり2度目

第29回全日本実業団バドミントン選手権大会は、6月22日から27日まで、岡山市、倉敷市で開催されました。

例年のことながら、連日30度を超す酷暑の中、各選手は団体戦に個人戦に熱戦を繰り広げました。

団体戦は、男子はヨネックスが9年ぶり2度目、女子はサントリーが4年連続優勝を飾り、男子シングルスは銭谷が2年ぶり4度目、ダブルスは池田・尾崎組が初のタイトル、女子シングルスは湯木が3年ぶり7度目、ダブルスは徳田・高田組が3連勝に輝きました。

年齢別では、30歳以上シングルスに渡辺が4連勝、同ダブルスは渡辺・金子組が初優勝、40歳以上シングルスは高橋が2年連続、同ダブルスは川岡・河野組が初優勝を飾りました。

▼男子団体5回戦

電電東京（東京） 3—0 川崎製鉄水島（岡山）

関東自工（神奈川） 3—0 松下電機（大阪）

電電北海道（北海道） 3—0 日本自動変速機（静岡）

カワサキ（東京） 3—0 住友金属（和歌山）

高岡市役所（富山） 3—0 横浜市役所（神奈川）

電電近畿（大阪） 3—0 スワロー化研（大阪）

トヨタ自工（愛知） 3—0 三菱電機長崎（長崎）

ヨネックス（東京） 3—0 三井造船玉野（岡山）

▼同準々決勝

電電東京 3—0 関東自工

カワサキ 3—0 電電北海道

高岡市役所 3—0 電電近畿

ヨネックス 3—0 トヨタ自工

▼同準決勝

電電東京 3—0 カワサキ

田所 2（15—9, 15—10） 0 今井

土田 2（15—9, 15—10） 0 斉藤

池田 2（15—6, 15—6） 0 銭谷

尾崎 2（15—6, 15—6） 0 角田

田所 2（15—1, 15—12） 0 斉藤

ヨネックス　3―0　高岡市役所

辻	2	15―5	17―16	0	今泉	長谷川
栂野尾	2	15―12	15―3	0	関村	飯野
長谷川	2	15―13	15―2	0	米沢	米沢

▼同決勝

ヨネックス　3―2　電電東京

栂野尾	1	14―17	10―15	15―11	2	池田
飯野						尾崎
辻	2	15―11	7―15	15―7	1	田所
長谷川						土田
飯野	2	15―13	15―8	0	尾崎	
辻	0	1―15	3―15	2	土田	
長谷川	2	15―4	15―10	0	田所	

（ヨネックスは9年ぶり2度目）

ヨネックスが、新鋭長谷川の加入でぐっと戦力アップした上に、大場、後藤の見事な援護射撃により、持ち駒の豊富さを充分に生かして、実に9年ぶり、2度目の優勝を果たした。

決勝は、どうしてもダブルスで2勝を挙げたい電電東京が、まず池田・尾崎組の奮闘で、栂野尾・飯野組に競り勝ち、幸先の良いスタートを切った。

しかし、新コンビの辻・長谷川組は、ファイナルゲーム、7―10の劣勢を逆転、田所・土田組から1時間にわたる熱戦をもぎとり、問題の雌雄を決す一戦、飯野対尾崎の第1シングルスを迎えた。

飯野は、コンディションの調整に失敗したのか、この日はダブルスからあの強力なスマッシュが見られず苦戦を強いられていたが、尾崎との第2ゲームでその原因と思われるフクラハギのけいれんに見舞われた。

第1ゲームを先取したものの、第2ゲーム9オールあたりから、飯野はしきりに屈伸運動を繰り返し悲愴な表情。

ラリーが続くことを恐れる飯野は、スマッシュとネットプレーに冴えを見せ、13―11とリードをするが、尾崎も飯野の捨て身のスマッシュを拾って、13オールに持ち込んだ。

このゲームを落とせば、飯野の敗北は衆目の一致するところ、ムードは尾崎に傾きかけた。

しかし、飯野はセッティングを拒み短期決戦の構え。

ビッコをひきながらも、スマッシュとヘアピンに頼った攻撃に徹し、うまく尾崎のミスを誘って、まさに満身創痍（そうい）の勝利であった。

第2シングルスの、土田の楽勝を見れば、電電東京にとっては痛恨の一敗。

単純にゲームを観戦すれば、なぜもっとラリーを続け、四隅を突かなかったのか、尾崎の戦法に疑問は多い。

しかし、尾崎の心中を察するなら、一概な判定を下してしまうのは、また酷なことかも知れない。

今にも倒れる寸前の相手に対して、尾崎は真っ向からの勝負を挑みたかったのではないか、正面から正々堂々と戦って勝利を握りたかったのではないか、そして降りかかる団体戦優勝のプレッシャー。

飯野が開き直った歯切れを見せたのと対照的に、尾崎には幾重にも重なる心理的な葛藤（かっとう）があったのではないか……。

一番過酷といわれる実業団ならでは、体力の限界に近づけば近づくほど現われる、プレーヤーの心理劇を見せてくれた。

この試合の、飯野の体力が限界だったとするなら、やはり陰の立役者として、大場・後藤組の活躍を忘れてはならない。

準々決勝までの3試合に全勝し、チームの負担を軽くしたことが最後の飯野の頑張りを引き出したのである。



9年ぶりの優勝　ヨネックス・チーム



4連勝は琴電の記録に並ぶ偉業だが、興味は記録の更新か？対抗馬の台頭か？

▼女子団体3回戦

サントリー（大阪） 3―0 日立化成（茨城）
百十四銀行（香川） 3―0 KDD東京（東京）
ヨネックス（東京） 3―0 富士重工群馬（群馬）
旭光学益子（栃本） 3―1 日本電装（愛知）
高松琴平電鉄（香川） 3―0 住友金属鋼管（兵庫）
電電東京（東京） 3―1 トヨタ自工（愛知）
関東自工（神奈川） 3―0 学習研究社（東京）
カワサキ（東京） 3―0 住友金属鹿島（茨城）

▼同準々決勝

サントリー 3―0 百十四銀行
ヨネックス 3―0 旭光学益子
電電東京 3―1 琴平電鉄
カワサキ 3―0 関東自工

▼同準決勝

サントリー 3―0 ヨネックス

徳田・高田	2	15―6 / 15―0	0	飯野・土田
谷・秋本	2	15―6 / 15―7	0	関根・大塚
東海林・大塚	2	11―9 / 11―2	0	大塚
カワサキ	3	15―8 / 13―15 / 15―4	1	米倉・三田
湯木・千葉	2		1	電電東京

▼同決勝

サントリー 3―1 カワサキ

近藤・渡辺	2	15―1 / 15―2	0	坂林・桜井
千葉	1	11―7 / 2―11 / 打切り	1	米倉
近藤	2	11―1 / 11―4	0	三田
徳田・高田	2	15―6 / 18―16	0	湯木・千葉

（サントリーは4連勝4度目）

創部以来、負け知らずの快進撃を続けるサントリーに、〝待っ

谷・秋本	2	10―15 / 15―11 / 15―9	1	近藤・渡辺
東海林	0	8―11 / 6―11	2	湯木
徳田	2	11―2 / 11―1	0	近藤

た〟をかけるのはどのチームか、興味はその一点に絞られていた。

が、勢いに乗るサントリーは、初戦からまったく危なげなくストレートで勝ち進み、3年連続チャンピオンの貫禄を示して決勝進出を決めた。

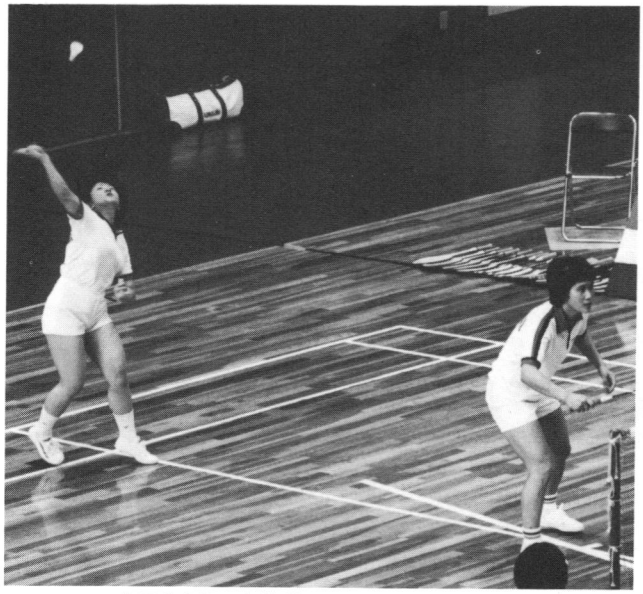
一方、カワサキは地元出身の湯木、近藤を軸に、これも余力を残して決勝へ駒を進めた。

3年連続の対戦となった決勝だったが、戦前の予想に反して近藤が思わぬ不振。

不動のオーダーのサントリーに対し、カワサキはシングルスで逆転の望みを託し、徳田に近藤を配したが、これが近藤のスランプにより、あっけない幕切れとなった。

サントリーの勝因は、徳田、高田の活躍もさることながら、ダブルスの谷・秋本組の充実、シングルスの東海林の成長が特筆される。

谷・秋本組は、従来の粘り強さとともに、ここ一本のコンセントレーションが素晴らしく、気力あふれんばかりの試合ぶりだった。



カワサキは3年連続の決勝進出だったが

東海林も、力強さ、試合の駆け引きでたくましさを増し、今や完全にサントリーで徳田に次ぐ2番手として、貴重なシングルスプレーヤーとなった。

女子は、第8シードまでが順当に準々決勝へ勝ち進んだが、不運だったのは百十四銀行。

ファイター・牛田が、東海林から第1ゲームを奪い、一矢を報いるかと思われたが、突然の肉離れのため棄権を余儀なくされたのは、不運としかいいようがない。

個人戦でも、波乱の目となる要素が十分だっただけに残念。

ベテラン健在を示したのが東条文子（旧性横井）。

琴平電鉄を率いて2勝を挙げ、かつてのチャンピオンの片鱗を見せてくれた。

新鋭では、三田（電電東京、藤園女学園出身）のはつらつとした動きが印象的、米倉と組んだダブルスは、今後大いに楽しみである。



破竹の勢いで4連勝のサントリー

第29回全日本実業団選手権大会



昨年の敗戦を糧に成長した銭谷、脂の乗りきった土田、これに肉薄するのは？

▼男子シングルス5回戦

土田　証雄（電電東京）　2―0　遠藤　好男（電電北海道）
日下　昇（百十四銀行）　2―1　長谷川博幸（ヨネックス）
今泉　勉（高岡市役所）　2―0　尾崎　幹雄（電電東京）
栂野尾昌一（ヨネックス）　2―0　谷口　寛（トヨタ自工）
飯野　佳孝（ヨネックス）　2―0　川村　桂司（住金和歌山）
銭谷　欽治（カワサキ）　2―0　大場　和博（ヨネックス）
米　正隆（北陸コカ）　2―0　菅原　敬二（トヨタ自工）
辻　敏弘（ヨネックス）　2―0　田所　光男（電電東京）

▼同準々決勝

土田2（15―11　15―6）0日下
栂野尾2（15―6　17―14）0今泉
銭谷2（15―4　15―0）0飯野
辻2（15―13　15―5）0米

▼同準決勝

土田2（15―7　15―4　11―15）1栂野尾
銭谷2（15―2　15―6）0辻

▼同決勝

銭谷2（15―1　15―3　17―18）1土田
（銭谷は2年ぶり4度目）

男子シングルスは、全般にベテラン勢が活躍、ベスト8入りで日下（百十四銀行）が長谷川（ヨネックス）を、今泉（高岡市役所）が尾崎（電電東京）を、降して勝ち上がった。

日下対長谷川は、長谷川が一発の力に頼って単調な攻撃になるのに対し、日下は丁寧によく拾ってから逆襲、特に左右からのクロススマッシュが、長谷川の逆モーションとなった。

長谷川も、ファイナルゲームの3―13からよく挽回したが、時すでに遅く社会人のスタートをベスト16で終ってしまった。

今泉対尾崎は、例によって今

泉が得意のカット戦法としぶとい粘りを見せ、スチールラケットに替えて威力を増した尾崎のスマッシュを封じたかっこう、柔よく剛を制した一番だった。

そして、ベテランの中で最も光ったのは、今年32歳になる栂野尾。

初戦から、宮崎（サントリー）の食い下がりに会い苦しいスタートを切ったが、谷口（トヨタ自工）戦、今泉戦と尻上がりに調子を取り戻し、団体、個人戦ダブルスの汚名をそそいだ。

準決勝の土田戦では、第1ゲーム見事なフォアからのストレートスマッシュ、確実なクリアーで先取し、あわやと思わせた。

この日の、栂野尾の体力、意気込みから、ファイナルゲームも予断を許さなかったが、「ラブ・オール」のコール直後、土田のサービスをストレートスマッシュで決めたと思ったのを、「アウト」と判定されガックリ。

このあたりから、栂野尾のスマッシュがめっきり少なくなり、同時に集中力を欠いてきたようだった。

「自信があるんだ」と、口の中でつぶやきながらプレーを続行したものの、これが微妙な影響を与えたのかも知れない。

昨年の覇者・土田は、栂野尾戦こそファイナルゲームに持ち込まれたものの、団体戦から通じて安定した力を発揮して決勝へ進出した。

一方、昨年唯一の敗戦をこの実業団で記録した銭谷は、慎重の上にも慎重を期した戦いぶり。

準々決勝の飯野戦、準決勝の辻戦を、完璧な試合運びで一蹴して、これまた勇躍決勝へ勝ち上がった。

第1ゲームは、互いに強烈なスマッシュを打ち合って、一進一退の攻防が激しく続いたが、攻撃一本に徹した土田が僅かにまさって先取。

しかし、ダブルス2試合を消化した土田は、第1ゲームでスタミナを使い切って、第2ゲームからは、なす術なく、「第1ゲームは打ち過ぎて失敗したので、第2ゲームは相手を回していく作戦に切り替えた」（銭谷選手談）という術中にはまって力尽きた。

銭谷は、好調さに溺れることなく試合の流れを的確に読み取り、第1ゲームこそ落としたがまずは完勝か。

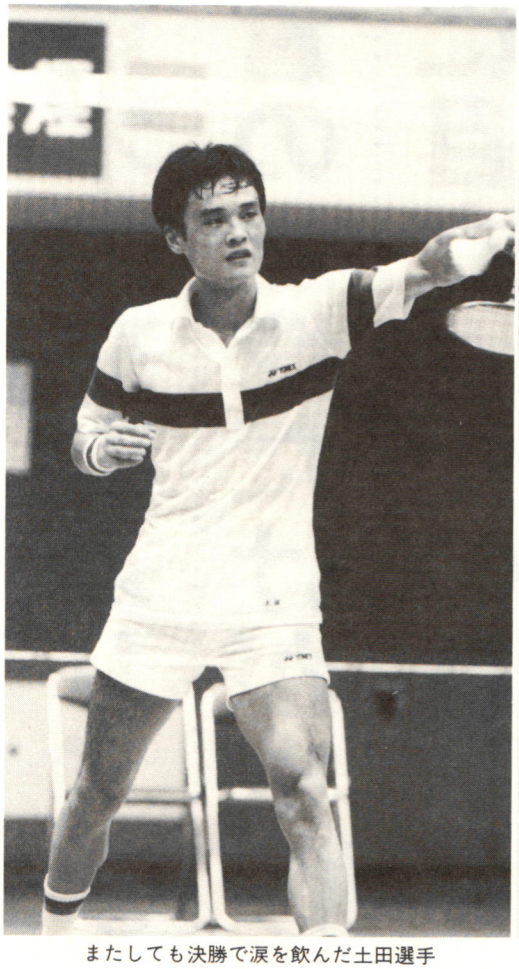
これからも、心技体ともに脂の乗ってきた両者の、雌雄を決する戦いが白熱化しそうである。

優勝した銭谷欽治選手の話……

トマス杯から好調だったので、凡ミスだけを気をつけていた。去年のこの大会で負けているので、今年は何が何でも勝ちたかった。自分ではだいたい予想通りの試合ができたと思っている。



絶好調ぶりを発揮、4度目の優勝銭谷選手



またしても決勝で涙を飲んだ土田選手

女子単優勝

湯木博恵

3年ぶり7度目

湯木の充実ぶり、米倉の進境だけがやけに目立ったのは、2人の力が抜群なのか。

▼女子シングルス4回戦

近藤　小織（カワサキ）2—0 原口　恵子（サントリー）
谷　美津代（サントリー）2—0 小寺　裕美（岡山市役所）
千葉　陽子（カワサキ）2—1 高田　幹子（サンドリー）
米倉よし子（電電東京）2—0 横山ナルミ（サントリー）
湯木　博恵（カワサキ）2—0 日山　裕子（旭光学）
東海林文子（サントリー）2—0 関根　和子（ヨネックス）
秋本　幸子（サントリー）2—0 沢内真由美（カワサキ）
徳田　敦子（サントリー）2—0 三田知佳子（電電東京）

▼同準決勝

近藤2 — 11—5 11—4 11—4 — 1谷
米倉2 — 11—4 11—3 — 0千葉

湯木2 — 11—4 7—11 11—3 — 1東海林
徳田2 — 11—1 11—1 — 0秋本

▼同準決勝

米倉2 — 11—5 11—8 — 0近藤
湯木2 — 11—3 11—4 — 0徳田

▼同決勝

湯木2 — 5—11 11—5 11—3 — 1米倉

（湯木は3年ぶり7度目）

うだるような連日の暑さで、次第に動作が緩慢になっていく選手、目に見えて集中力を失っていく選手、その中で積極的にコートへ出て調整に励んでいた2人が、決勝へ進出した湯木、米倉の両選手であった。

湯木は、個人戦のエントリーをシングルス一本に絞った余裕からか、米倉は、伸び盛りの意欲からか、とにかく2人からはシングルスを制する覇気が流れていた。

試合は、まず若い米倉がリード。

速いクリアーと力強いスマッシュを組み合わせ、スピードで

押しまくり、第1ゲームを先取。

しかし、「うちの子はスロースターターだから、きっと勝ってくれるだろうと思って、安心して見ていました」（湯木選手のお母さん談）の言葉どおり、落ち着いた湯木は、前後左右へ丹念にゆさぶりをかけて、若い米倉のアセリを誘い出し、第2ゲーム0―4から一気に逆転。

湯木の丁寧な配球は、ミスを誘発させると同時に、米倉のスタミナを吸い取るように、追いつめていく。

ファイナルゲームの湯木は、完全に全盛時のもの。

スタミナを奪い取った後から、ゆっくりと得点して、偉大な記録へまた新しい1ページを加えた。

敗れたとはいえ、米倉も持ち味のスピード攻撃を駆使して善戦、徳田、近藤が低迷していると〝ポスト湯木〟の担い手となるだろう。

「肩の荷を降ろしてあげて、バドミントンを楽しませてやりたい」（湯木選手のお母さん談）だろうが、現状ではまだまだそれを許さないようである。

また、ここでもサントリーは、ベスト16の7人、ベスト8の4人を占め、層の厚さは年々増していく一方である。

僅かに8シードを破ったのは、千葉1人。

小さな山から勝ち抜いて、4試合目に高田と対戦し、ファイナルの長い試合の末、8入りを果たした。

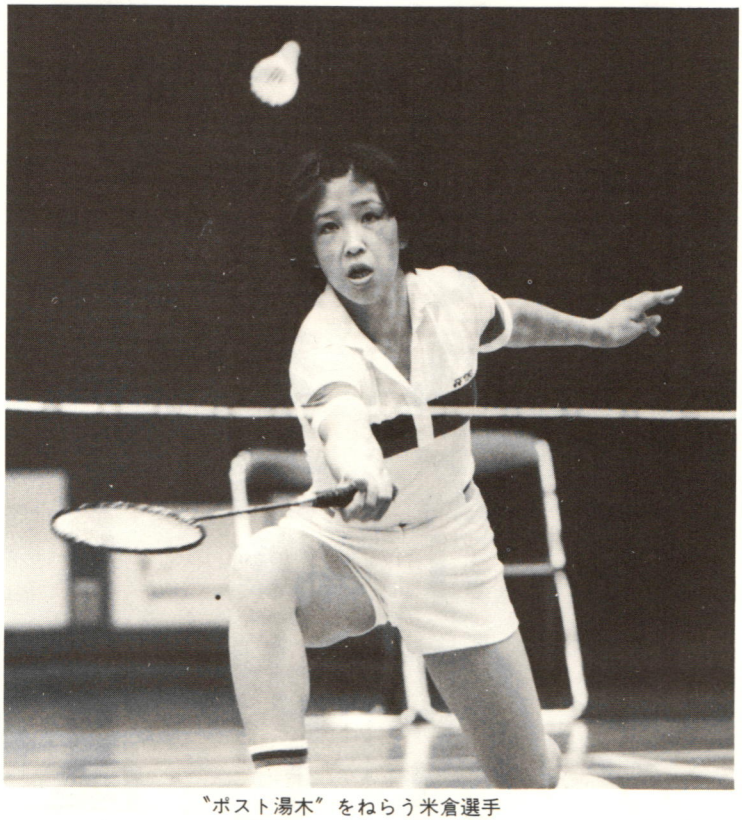
体力、気力ともにまだまだ充分にやれそうである。

優勝した湯木博恵選手の話……

地元だけに勝ちたかった。シングルスに絞ったので、体力的には余裕があった。サービスではなくエンドを取ったのが最終的には良かった。できれば団体戦に勝ちたかったが……。



偉大な記録へ1ページを加えた湯木選手



〝ポスト湯木〟をねらう米倉選手

第29回全日本実業団選手権大会

男子ダブルス 池田信孝 尾崎幹雄 初優勝

池田の好リードが尾崎の強打を引き出したが、それより気力勝ちといった格好!!

▼男子ダブルス4回戦

山本・坂本（トヨタ自工）2―0 栂野尾・飯野（ヨネックス）
木村・遠藤（電電北海道）2―0 後藤・芹沢（日本自変機）
大場・後藤（ヨネックス）2―0 米沢・宮林（高岡市役所）
田所・土田（電電東京）2―1 高橋・栗（関東自工）
池田・尾崎（電電東京）2―0 丸山・秋庭（鶴岡市役所）
銭谷・角田（カワサキ）2―0 山崎・菅（関東自工）
辻・長谷川（ヨネックス）2―0 梶川・磯野（トヨタ自工）
今泉・牧野（高岡市役所）2―0 宮崎・森下（サントリー）

▼同準々決勝

木村・遠藤 2（15―13, 15―5）0 山本・坂本
田所・土田 2（15―6, 15―9）0 木村・遠藤
池田・尾崎 2（15―5, 15―9）0 銭谷・角田
辻・長谷川 2（15―10, 15―9）0 今泉・牧野
田所・土田 2（15―10, 15―8, 10―15）1 大場・後藤

▼同準決勝

池田・尾崎 2（18―13, 15―7）0 辻・長谷川
田所・土田 2（15―10, 10―15, 17―14）1 池田・尾崎

▼同決勝

（池田・尾崎組は初優勝）

戦前から優勝候補の筆頭に挙げられ、大会5連覇を目指していた栂野尾・飯野（ヨネックス）組が、早くも4回戦で山本・坂本（トヨタ自工）組に敗れ、番狂わせとなった。

前日の団体戦で消耗し切った飯野にまったく精彩なく、山本・坂本組の殊勲もあるが、コンディション調整に失敗した栂野尾組といえよう。

山本・坂本組は、巧者山本と若い坂本が積極的に攻撃を仕掛け、果敢に打ちまくって栂野尾組に反撃の糸口を与えなかった。

相手のコンディションが不充分だったとはいえ、勝ちは勝ち、この実績が自信につながれば、今後の活躍も夢ではないだろう。

この山本組を破って、ベスト4へ進出したのが木村・遠藤組。安定したレシーブ力を基盤に、冷静な試合運びはさすがベテランの域か。

欲をいえば、遠藤のスマッシュ力に往年の切れ味が戻れば一層の期待が持てるはず。

栂野尾組が姿を消したことで、一躍クローズアップされたのが辻・長谷川（ヨネックス）組のトマス・カップ若手コンビ。

両者とも、長身からの爆発的なスマッシュ力が売り物なだけに、団体戦でも田所・土田（ヨネックス）組を降した実績から、個人戦でも優勝争いに加わることは必至と思われた。

予想通り、順調に勝ち進んだ辻組は、準々決勝で昨年準優勝の北陸の雄、今泉・牧野（高岡市役所）組を「練習不足だった」（今泉談）とはいえ、ストレートに破って実力の片鱗を見せた。

勢いに乗る若手コンビは、準決勝でこの大会初優勝に意地を見せる電電東京の古豪、池田・尾崎組と激突した。

しかし、辻・長谷川組は緊張のためやや硬さがみえ、スマッシュのバックアウトが多く自滅、第2ゲームはリードを保って先に13点を取ってファイナルゲームにもつれこむかと思われたが、大事な場面でジャッジミスなど凡ミスを重ねて、惜しくも決勝進出はならなかった。

池田・尾崎組は、例によって池田の巧リードと、スチールラケットに替えた尾崎のスマッシュがよく噛み合い、特に決勝戦では尾崎が抜群の当たりを見せ、念願の初優勝を飾った。

惜しくも優勝はならなかったが、田所・土田組もこれに優るとも劣らぬ好調さで大激戦を演じた。

手の内を知った者同士の決勝ということで、試合は長いラリーの応酬が続き、最近では珍らしい持久戦となったが、ファイナルゲーム、4—5から一気に8ポイントを加えた池田組が、田所組の追撃を振り切って、長いゲームにピリオドを打った。

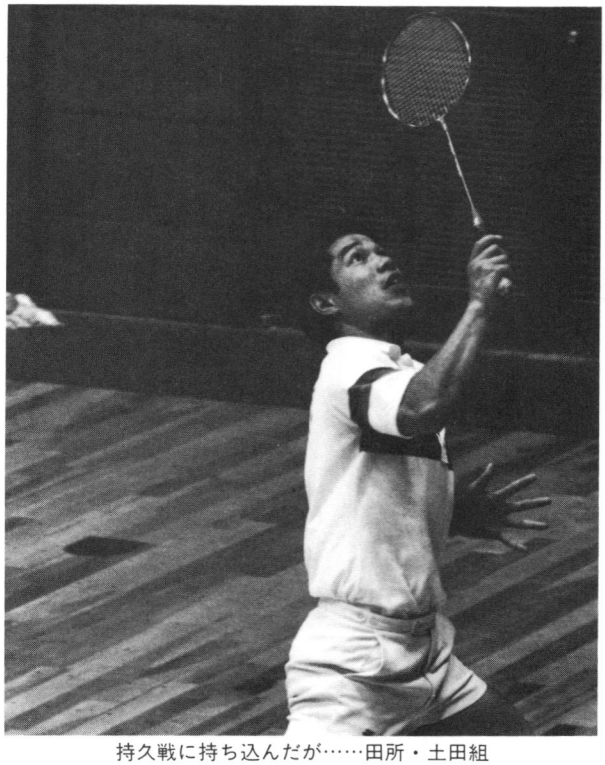
優勝した池田信孝選手の話……

尾崎が団体戦の雪辱をして頑張ってくれた。今大会のように暑く、条件の悪いときほど、精神力、気力がモノをいうものだ。それはやはり練習から生まれてくるもので、若手はもっとやらにゃー……。

尾崎幹雄選手の話……団体戦でぶざまな負け方をしたので、気合が入りました。ダブルスは団体戦で栂野尾・飯野組に勝って自信がつきました。



初優勝の感激、池田・尾崎組



持久戦に持ち込んだが……田所・土田組

女子ダブルス 徳田敦子 高田幹子 3連勝

徳田・高田の堅城ゆるがず、向うところ敵なしでまだまだ連勝記録を伸ばしそう。

▼女子ダブルス4回戦

徳田・高田（サントリー）2—0 平子・管瀬（本田技研）
米倉・三田（電電東京）2—0 阪口・榎並（滋賀銀行）
東海林・原口（サントリー）2—0 千葉・沢内（カワサキ）
関根・大塚（ヨネックス）2—0 上野・海賀（旭光学）
平井・山田（琴平電鉄）2—0 稲垣・高田（KDD）
近藤・渡辺（カワサキ）2—0 葛西・横山（サントリー）
日向野・日山（旭光学）2—0 飯野・土田（ヨネックス）
谷・秋本（サントリー）2—0 崎野・松本（住金和歌山）

▼同準々決勝

徳田・高田 2（15—2, 15—10）0 米倉・三田
関根・大塚 2（15—3, 15—10）0 東海林・原口
平井・山田 2（15—8, 15—12）1 近藤・渡辺
谷・秋本 2（15—2, 15—10）0 日向野・日山

▼同準決勝

徳田・高田 2（15—10, 15—14）0 関根・大塚
谷・秋本 2（15—10, 15—11）0 平井・山田

▼同決勝

徳田・高田 2（15—5, 15—4）0 谷・秋本

（徳田・高田組は3連勝3度目）

準々決勝に進出した8組のペアのうち、米倉・三田（電電東京）、東海林・原口（サントリー）、関根・大塚（ヨネックス）のフレッシュ・ペアが注目を集めた。

三田は米倉と同じ藤園女子出身、原口は四条畷出身で二年生のときのインターハイ・チャンピオン。そして関根・大塚はいうまでもなく日体大卒の名コンビ＝インカレ・チャンピオン。

米倉のスピード感あふれる攻撃型プレーに劣らぬ積極的なバドミントンを展開した三田だったが、準々決勝の徳田・高田の壁は厚かった。

第1ゲームこそ13オールのセッティングにもつれたが、第2ゲームは10本どまりのストレー

ト負けだった。

そして、フレッシュコンビ同士の対決となった関根・大塚×東海林・原口の一戦は、関根・大塚がインカレ・チャンピオンの実力を見せつけた。やはり原口は、高校時代からのダブルスにおけるキャリア不足が否めなかった。

平井・山田が近藤・渡辺をファイナルゲームの末、破った一戦は見ごたえがあった。この試合、近藤・渡辺は出足よく15—8で第1ゲームを先取。このままストレート勝ちかと思われたが、第2ゲームに入るや、平井組は近藤組の攻撃を徹底的に拾いまくった。それが近藤・渡辺のあせりを誘い、15—8でファイナルへと勝負はもち込まれた。

そのファイナルゲームでも、平井・山田の調子は衰えず、15—12で突き離した。

準決勝に進出したサントリー勢は、団体戦の勢いをそのまま発揮し、そろって決勝へ勝ちあがった。

関根・大塚は徳田・高田の牙城にせまったが、団体戦からの連戦で疲労の色濃く、惜しくも決勝進出はならなかった。

手の内を知りつくした同士の対戦のためか、決勝ではまったく盛上りが見られず、低調な内容であった。

谷・秋本にもう一つ気迫を持って徳田・高田に立ち向う姿勢がほしかった。特に谷・秋本は準決勝までの各試合が、すばらしい内容であっただけに……。今後の奮起に期待したい。

同僚以外にこれといった強敵もなく、湯木もダブルスにエントリーしていなかったとはいえ、徳田・高田の三連勝は立派の一語に尽きる。

優勝した徳田敦子選手・高田幹子選手の話……

植野さんの欠場がさみしかった。準々決勝の米倉さんたちとの試合が一番苦しかった。もっと練習して連勝記録をのばしたいと思います。



連勝街道をばく進、徳田・高田組

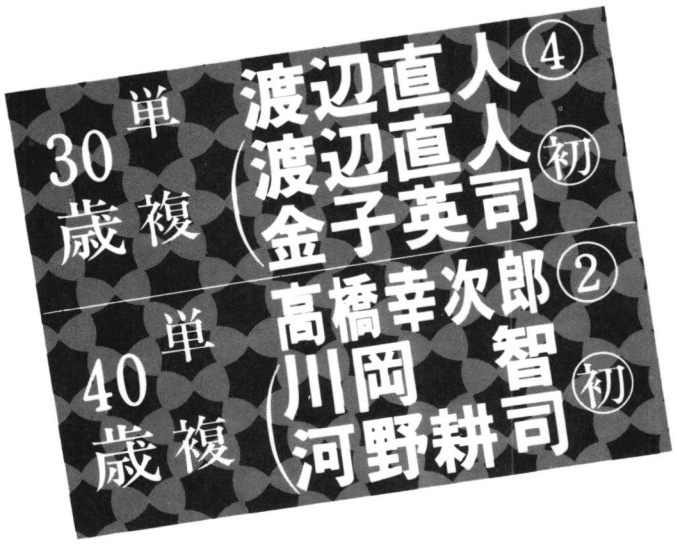
来たれ!! バドミントン キャンプ

バドミントン・キャンプ

主　催　ラケットショップ元町
協　賛　YONEX, 河崎ラケット, サンバタ
参加費　￥23,000
場　所　群馬県吾妻郡嬬恋村大字千俣611 ヤマタ・ホステル TEL 02799－6－0101
宿　舎　同　上
期　日　S54年10月5日(金) 6日(土) 7日(日)
集合・場所　S54年10月4日 PM9:30集合 出発PM10:00 横浜駅西口天理ビル前
コーチ　相沢マチ子(河崎ラケット専属)プロ
交通機関　バス（勤労者観光センター）
募集人員　50名（18歳以上）
申込締切日　S54年9月20日(ただし定員になり次第締切らせていただきます。)
申込方法　申込用紙に必要事項を記入し、参加費にそえて直接持参または、現金書留で受け付けます。申込金￥10,000残金は9月30日まで、取消の場合申込金は返却しません。
その他　全員の方に、旅行傷害保険（スポーツ傷害保険含む）に入っていただきます。(保険料は参加費に含まれています。)

お申込み・お問い合わせは
● ラケットショップ元町
横浜店　〒231 横浜市中区元町5－203 元町スカイビル5F TEL 045－651－2020・662－9857
渋谷店　〒150 東京都渋谷区渋谷1－25－6 TEL 03－400－7390
池袋店　〒171 東京都豊島区西池袋1－19－6 TEL 03－988－0215

ラケットショップ元町



渡辺の単複制覇のスタミナも見事!! 高橋が毎朝5kmを走るのも立派の一語に尽きる。

▼30歳以上シングルス準々決勝

渡辺 直人（横浜市役所） 2—0 永井 博（堀場）
芳上 一男（三井造船） 2—0 馬場 猛夫（東京都庁）
山本 敏彦（福井市役所） 2—0 古明地正邦（東京簡保）
鈴木 勝之（三菱重工） 2—1 白井規久夫（海上自衛隊）

▼同準決勝

渡辺 2 — 15—7, 15—3 — 0 芳上
鈴木 2 — 15—1, 15—0 — 0 山本

▼同決勝

渡辺 2 — 15—11, 15—1 — 0 鈴木
（渡辺は4連勝4度目）

▼30歳以上ダブルス準々決勝

渡辺・金子（横浜市役所） 2—0 森谷・星野（電電東京）
京屋・佐藤（日石根岸） 2—0 宮岡・林（国策パルプ）
芳上・藤原（三井造船） 2—0 阪井・山本（福井市役所）
大原・竹俣（東京都庁） 2—0 春武・宮原（日田市役所）

▼同準決勝

渡辺 2 — 15—3, 15—2 — 0 京屋・佐藤
芳上 2 — 15—4, 15—6 — 0 大原・竹俣

▼同決勝

渡辺 2 — 12—15, 15—6, 15—5 — 1 芳上・藤原

（渡辺・金子組は初優勝）

ここ数年続いている顔合わせの決勝、渡辺対鈴木の対戦となったが、「仕事が忙がしくて、ランニングをする暇もない」という鈴木は、第1ゲーム中盤まで執拗に渡辺を追いかけたが、やはり練習不足がたたってスタミナが切れ、またしても涙を飲む結果となった。

4連覇を達成した渡辺は、スピード、スタミナとも、30歳以上ではやはり最右翼の存在。

今大会ではダブルスにも優勝するなど、意欲も衰えるどころか上昇の一途、連勝記録をどこまで伸ばすか関心を集めている。

単複に優勝した渡辺直人選手の

話……前日のダブルスで疲れて、シングルスの決勝は心配だった。準決勝も地元の芳上さんで気を抜けなかった。今年勝てたので一応5連勝を目標にして来年も頑張りたい。

ダブルスは、パートナーの金子君がダブルスプレーヤーなので、スマッシュを打つことだけを心掛けた。

チームの練習方針を、若手中心に切り換えたので、練習不足で大会中に筋肉痛に見舞われた。こんなことは初めてだ。

▼40歳以上シングルス準々決勝

高橋幸次郎（いずゞ川崎）2—0 榎森 信二（日鋼京浜）
木山 茂雄（興亜石油）2—0 山本 能也（サンスポーツ）
岡崎 健一（日本火災）2—1 伊藤 雅明（電電東海）
遠藤 啓治（日鋼京浜）2—0 原 明弘（小松製作所）

▼同準決勝

高橋 2（15—3, 15—2）0 木山
遠藤 2（15—5, 15—5）0 岡崎

▼同決勝

高橋 2（15—2, 7—15, 15—4）1 遠藤
（高橋は2年連続2度目）



単・複優勝は立派、渡辺直人選手

▼40歳以上ダブルス準々決勝

岡崎・飴谷（日本火災）2—0 田制・薄羽（日本化成）
川岡・河野（国策パルプ）2—0 佐薙・三苫（住化愛媛）
遠藤・榎森（日鋼京浜）2—1 谷口・吉上（クラレ西条）
伊藤・鬼頭（電電東海）2—0 浜中・松木（丸善石油）

▼同準決勝

川岡・河野 2（15—11, 15—10）0 遠藤・榎森
（川岡・河野組は初優勝）

昨年の雪辱を期した遠藤だったが、第2ゲーム、得意のクロスカットでタイに持ち込んだものの、ファイナルゲームで奮起した高橋に押え込まれ、王座の奪回はならなかった。

高橋は、持ち前のスタミナを十分に発揮し、終始冷静沈着なプレーはひと際光るものがあった。

▼同決勝

川岡・河野 2（15—10, 15—12, 10—15）1 岡崎・飴谷
遠藤・榎森 2（17—14, 15—7, 15—18）1 伊藤・鬼頭



1年間の努力が実った高橋幸次郎選手

優勝した高橋幸次郎選手の話……1年間の努力が実って嬉しい。去年よりも今年の方がきつかった。毎朝5キロ走って、週に3回練習している。

できれば来年も優勝を目指したい。

ペンフレンド募集

「バドミントン界」は、今やまさに国際的。世界各地にも沢山の購読者を持っています。

最近カナダから当編集部に、こんなお便りが舞い込みました。

「私は、高校でバドミントンクラブの顧問をしていますが、日本のみなさんとクラブ員同士で文通をしたいと思います」

我と思わん方は、左記の住所へお便りをどうぞ。

Mr. Renato Aoanan
Cardinal Newman
Comprehensive School
33 Cromwell Cressent,
Hamilton, Ontario L8G2E9
CANADA

われらのクラブ⑳

納会要員の活躍華々しく

笠松クラブ



どの顔も生き生きとした表情

タイトルをご覧いただくと、いかにも飲んべえが多くて、ろくに練習もしないで宴会ばかりに明け暮れている、だらしないクラブのような印象を与えるかも知れません。

確かに、納会、宴会の類いが多いことは否定できません。

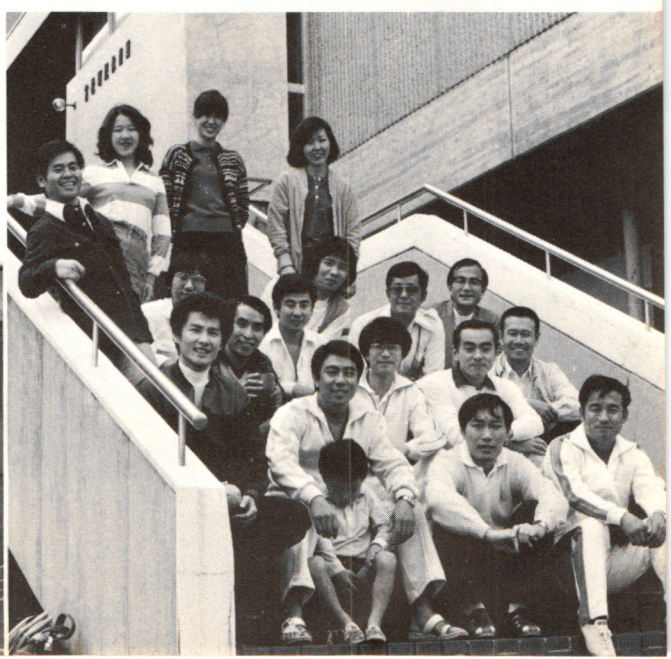
岐阜へ来られたバドミントン・プレーヤーなら知らぬ者はないといわれるスナック「ケントス」がその本拠地。地元での「ケントスを知らぬ者は、バドミントン・プレーヤーに非ず」というのは、今では全国でも通用するとさえいわれます。

この一流プレーヤーなら、一度は訪れたことのある「ケントス」のマスターも、実はレッキとしたクラブ員でありまして、コート上での勇姿はさておき笠松のエンターテイナーとして、連夜ラケットをマイクに持ち換え、クラブ員の面目をいかんなく発揮しているのです。

こうしてみますと、やはりかなりの社交性に富んだクラブであることに間違いはありません。

ただし、バドミントンに対する情熱も並大抵ではなく、交流試合や町民大会には、小学生だけでも百人以上を集めて手ほどきするのをみてもお分りのように、そのスケールでも全国有数なのでは、と自信のあるところです。

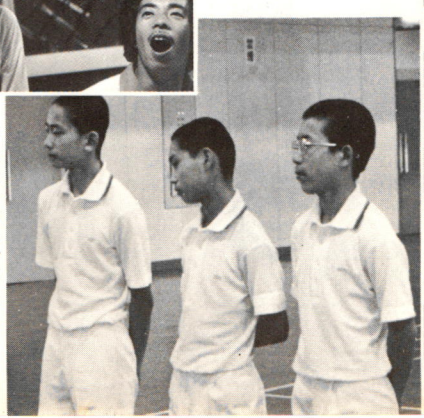
最近では、女子大生、ママさんといった紅一点の参加も目ざましく、ますます笠松クラブは大家族となって行くのです。



▶年中行事の交流試合



悪徳の栄え（？）



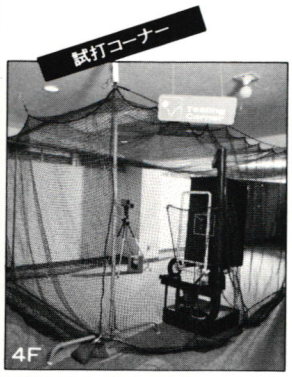
▶将来のチャンピオンを

ずらり、4店勢揃い。

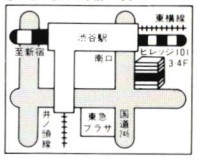
渋谷店

650㎡（170坪）の広々とした店内でゆったりショッピング。
試打コーナーも人気上々。





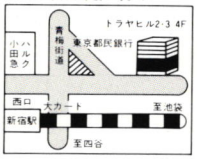
毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ヒレッジ101ビル3・4階）TEL03-464-9251～2〒150
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの
楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤヒル2・3・4階）TEL03-363-6848〒160
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで





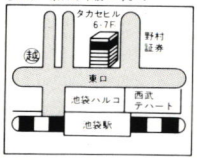




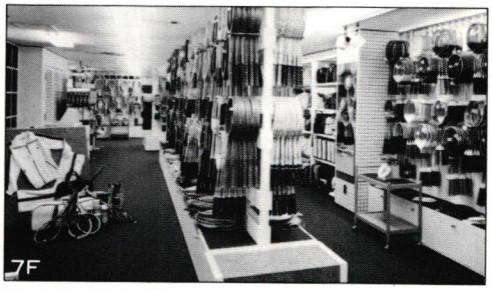
池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が
店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都豊島区東池袋1－1－4（タカセヒル6・7階）TEL03-989-0401〒170
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







横浜店

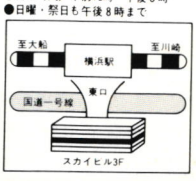
ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。
選びやすい各コーナー。







年中無休
横浜市西区高島町2－1　横浜駅東口（スカイヒル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間／午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

ウインザー ラケットショップ。







CARBO DELUXII

S-79

新製品

カーボデラックスII

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

CARBO DELUX

S-77

カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



選択の時代は終った!

kawasaki Badminton

数あるバドミントン・ラケットの中
カワサキ製品は
ひとり群を抜いた。永い独走が始まる。





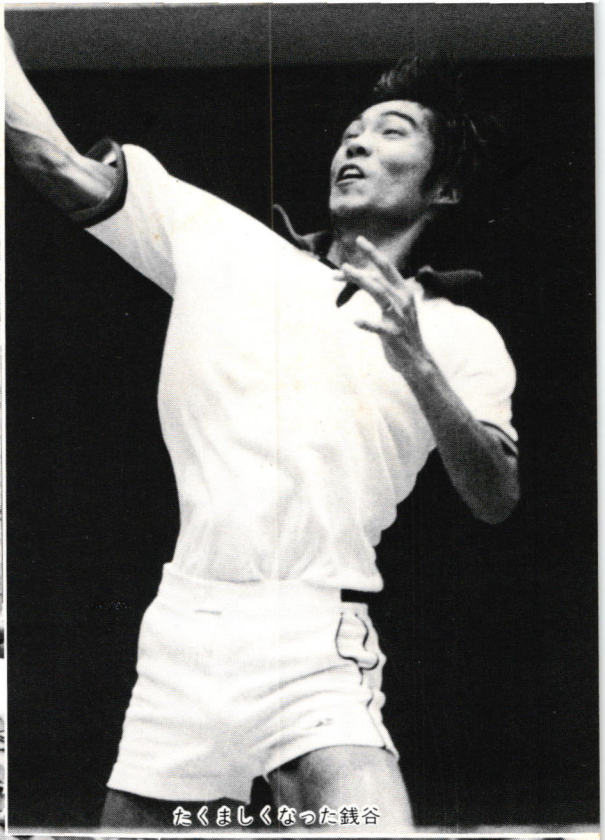
グラファイトシリーズ
世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス
グラファイトフレーム　グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円



スマッシュに威力、大場



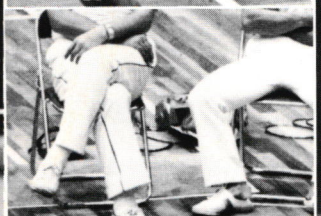
相変らずしぶとい今泉



たくましくなった銭谷

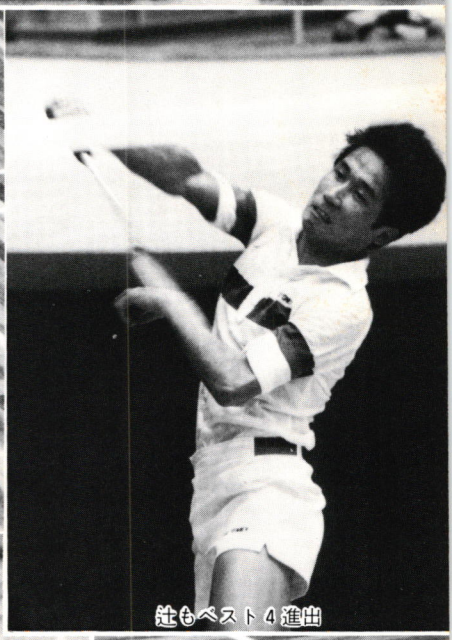


冴えた集中力、梅野尾

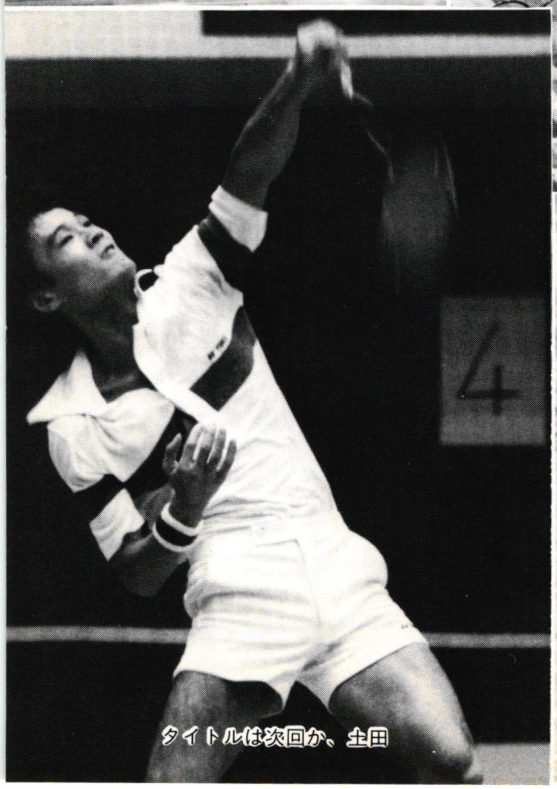




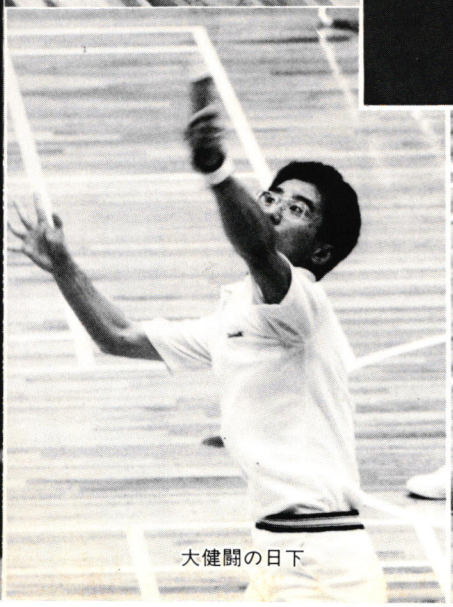
ケイレンにも負けず、飯野



辻もベスト4進出



タイトルは次回か、土田



大健闘の日下



粘りを発揮した米

YONEX®

ボディの美しさから出発した、主張のあるスポーツウエア。
単にかたちだけに流れず、単に機能だけに片よらない、新しい発想のスポーツウエアの誕生です。デザインは、あの三宅一生。このほかヨネックスには、オリジナルなスポーツウエアや、日本バドミントン協会推薦のスポーツウエアをずらりそろえています。

プレイヤーの声から、使いやすさをカタチにしたバッグ達。
ヨネックスのスポーツバッグの大特徴は、それぞれのデザインに、用途別にセブン・スリー・ワンと3種類あること。長期遠征用・短期遠征用・当日大会用と使いわけることができます。バッグにT.P.O.を持ちこむなんて、ヨネックスならではのアイデアとは思いませんか。ともかく、ヨネックスでかためると強い。

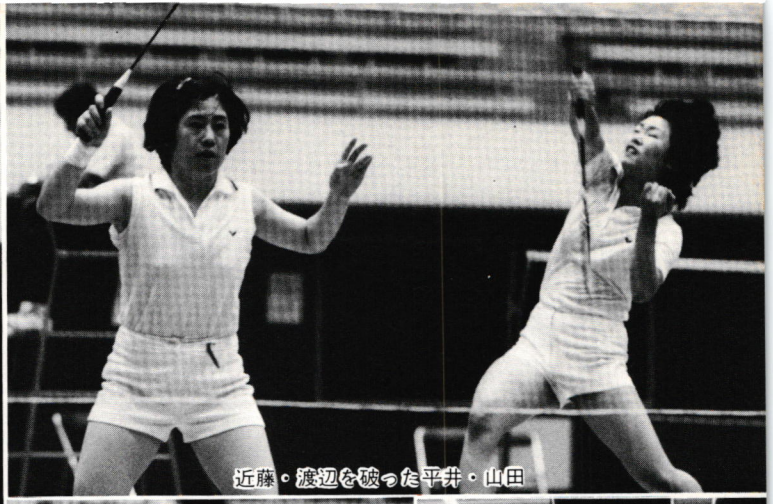
ヨネックスを着る。ヨネックスを持つ。勝てそうだぞ。

Flemming Delfs
フレミング・デルフス〔デンマーク〕

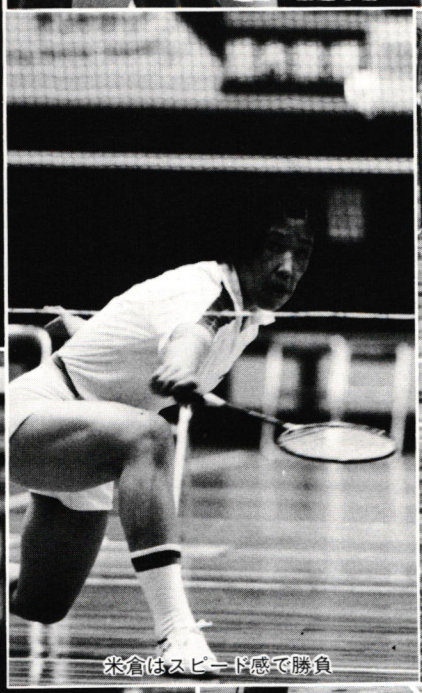




久々に女王の座に返り咲いた湯木



近藤・渡辺を破った平井・山田



米倉はスピード感で勝負



力強さが増した谷



豪快なスマッシュの辻・長谷川



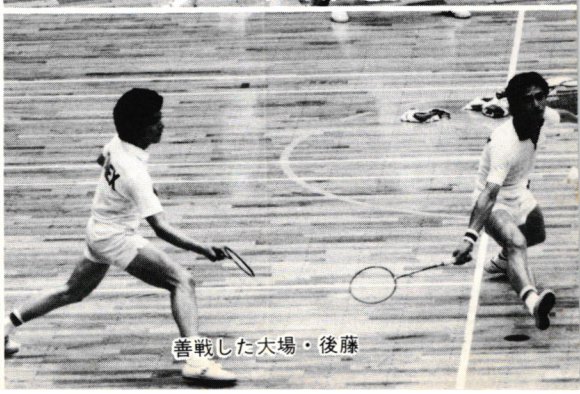
ベテランの味、木村・遠藤



息の合ったコンビ関根・大塚



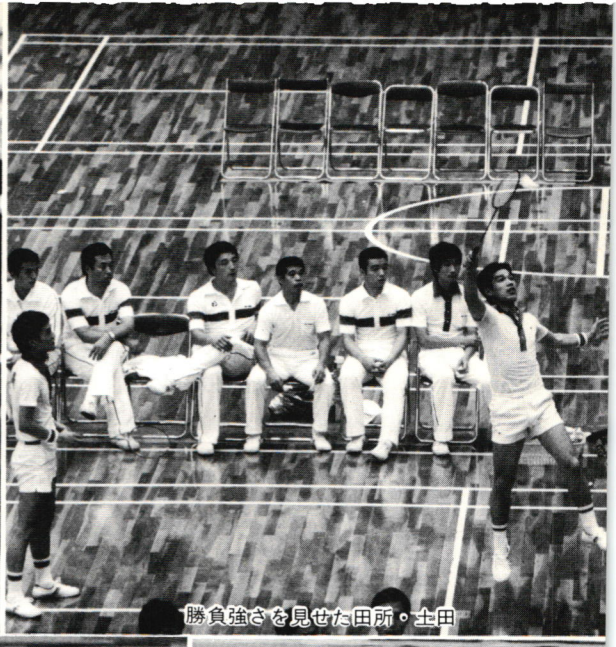
スタミナ切れ？　徳田



善戦した大場・後藤



気力で勝ち抜いた池田・尾崎



勝負強さを見せた田所・土田



フレッシュコンビ米倉・三田



社会人1年生の原口



シードを破ってベスト8の千葉



徳田・高田は破竹の3連勝



コンスタントな力を発揮した谷・秋本

世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス

グラファイトフレーム・グラファイトシャフト/黒(ケース付)
フレーム価格12,000円　ガット張り上り価格12,900円(ロンシープ)



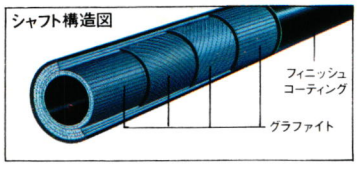
RACKET kawasaki
河崎ラケット工業株式会社

用により、ショット時のフレーム部のたわみが最適に作用し、たまもちが一段と良くなりました。これがスイートスポットの広がったと言われるところです。

打球をパワフルに——グラファイトシャフト

シャフト部は、グラファイトをタテ2層、左右ナナメに2層、計4層を組んで構成。(多重交差グラファイト)
多重に交差させることで、グラファイトの剛性を強力なバネに変えるので、エキサイトしたプレイ中に起きるラケットのねじれや、ぶれを最少限にとどめます。

エイトシックスを使うことにより、レシーブ能力、攻撃力とも更にアップし、いままでにない安定したプレイにつながります。



新鮮な打球感!

振動吸収力をアップ

科学的な実験により、グラファイトの振動吸収性の良さは実証ずみ。エイトシックスの使用は、プレイ中の疲労度を軽減させます。

ラケットの強じん化

グラファイトの強じんさが、そのまま生かされているので、どんな強い振りに対しても、曲がり、ねじれの心配がありません。

新鮮な打球感

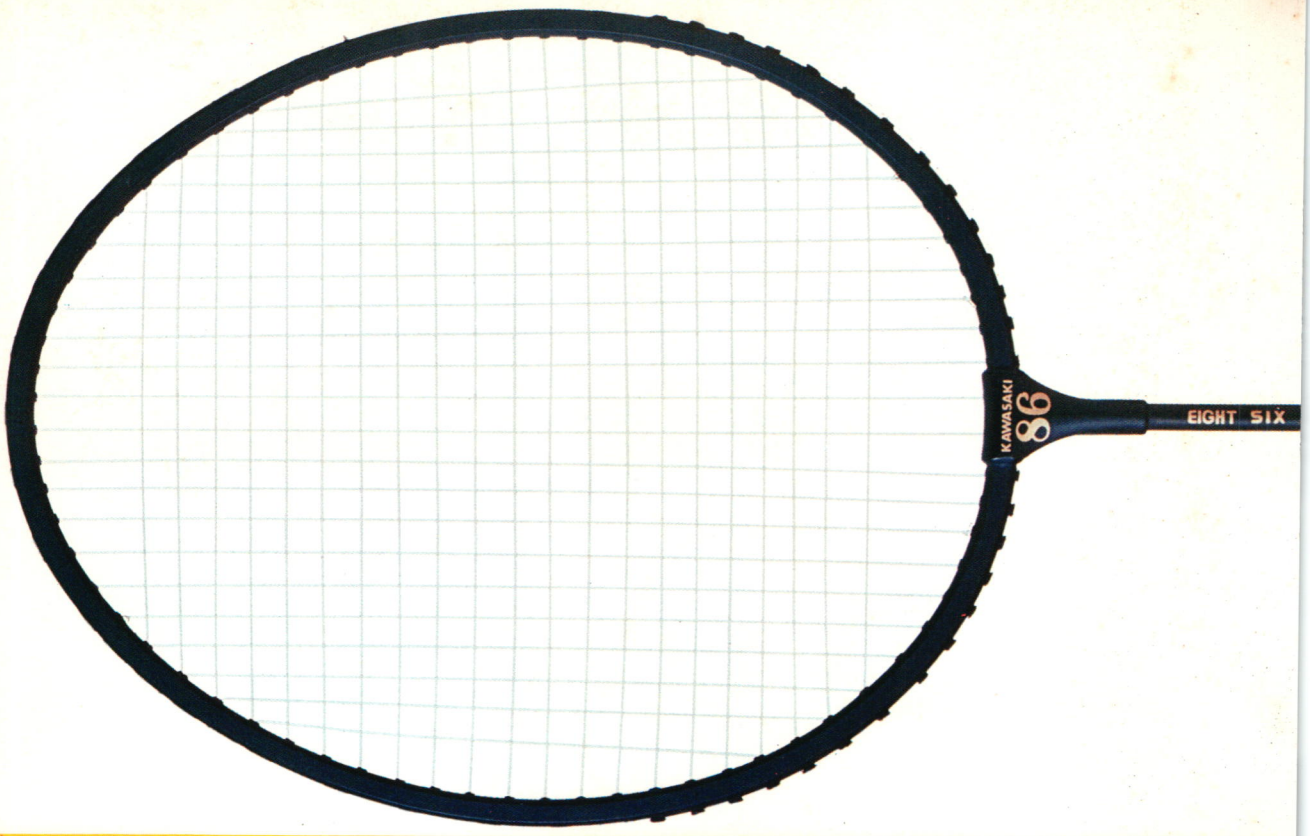
振動吸収性の良さ、しなり、たわみ具合の最適さなどが融合され、エイトシックスの打球感は全く新鮮なものになりました。新しい打球感の体験は、プレイに新しい発見をもたらします。



エイトツウ
シルバー(ケース付) グラファイトシャフト・アルミフレーム
フレーム価格8,000円 ガット張り上り価格8,900円



エイティ
黒(ケース付) グラファイトシャフト・ウッドフレーム
フレーム価格8,000円　ガット張り上り価格8,900円



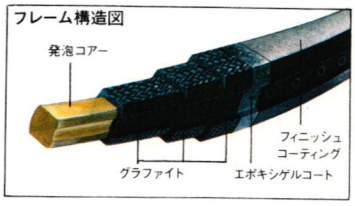
GRAPHITE

エイトシックス。このラケットの誕生は世界のバドミントン界に、ハリケーンを巻きおこし、カワサキの時代が到来したことを感じさせます。既に発売中のエイティ(B-80)・エイトツウ(B-82)は、100%グラファイトシャフト使用のラケットとして、その打球感の良さが一流プレーヤーの喝采を浴びました。
今、新登場のエイトシックスは、グラファイトを更にフレーム部にも採用。従来のグラファイトシャフトと一体となり、世界初のオールグラファイトラケットとして登場しました。他の新素材を使っただけのラケットと比較して、違いがはっきりわかるラケットの完成です。

しなやかな剛性 —— グラファイトフレーム

エイトシックスのフレーム部は、三層の編組グラファイト(数百万本のグラファイト繊維を編む)で構成され、表面はウレタンコーティングで手ざわりの良さ、仕上げの美しさなどが加わり高級感を出しています。

フレーム構造図



カワサキはなぜグラファイトを編むのか!

グラファイトの剛さと軽さは宇宙工学の分野の素材として使用されていることでも実証されています。
その剛さと軽さに、ラケットとして理想的なしなやかさをどう融合させるか——。
カワサキは独自の“編む”という技術によりグラファイトを、剛く、軽く、しかもしなやかな素材へと変革させました。
カワサキ技術陣の大きな功績です。

広くなったスイートスポット

エイトシックスは、編組グラファイトの使

kawasaki Badminton



グラファイトシリーズ



RSL VICKTOR

全国大会使用球に公認。

ヘアピンショットを可能にしたナイロン球

全英大会の公認球として世界的に有名なRSL。このRSLが開発したナイロンシャトル《RSLビクター》が、いまプレーヤーの間でたいへんな評判。これまでナイロン球の限界といわれてきたヘアピンショットを、この《ビクター》は、水鳥球と同じ飛行で打つことができます。シャトル革命を予測させるナイロン球による自在なネットプレー——世界中のプレーヤーが拍手で迎えました。

学生プレーヤーに朗報！

このRSLナイロンシャトル《ビクター》が、全国中学生大会の使用球として日本バドミントン協会の公認を受けました。続けて、高校・大学・一般の大会へとその輪が広がっていくことが予想されています。

性能が水鳥球に匹敵するばかりか、耐久力と打球感ではそれをはるかにしのぐこのRSL《ビクター》。とくに練習量の多い学生プレーヤーにとっては魅力といえましょう。

ゴーセンでは、このRSL《ビクター》を一手に販売。日本のプレーヤーにお届けしています。練習・試合にぜひお試しください。

No.256 RSLビクター

10個 ￥2,450

全国中学大会公認使用球

日本バドミントン協会検定合格球

●6月号 RSLビクターモニター当選者名

北海道 山本治　新潟県 宮本晶子　福島県 関口明
埼玉県 五静夫　東京都 荘田恵理　千葉県 福留加寿子
愛知県 斉藤敬一郎　奈良県 中村稔　大阪府 宮島豊文
大分県 谷上和年（敬称略）

GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎（06）942-5816（代）
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎（03）862-6576（代）
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎（092）712-5247（代）
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎（0762）47-0200（代）



反発の創造。

ゴーセンバド・ガット●ウインテックスシリーズ / ハイ・シープシリーズ

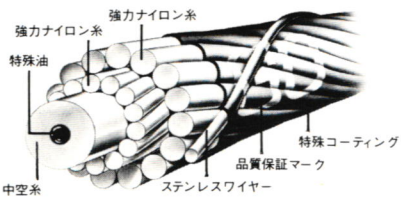
世界に誇るゴーセンのガット技術。

世界15か国でパテントを取得。

世界的なガットスペシャリストGOSEN。その証明は世界15か国におよぶパテントの取得。日本はもとより世界各地のファンを魅了したガットの数々。それはまさにゴーセンならではの技術における《完成度の高さ》を示すものです。

■中空糸・特殊油入り(PAT. 1106964)

糸の芯部分を空洞に。この中空部分が打球に鋭い反発を促進。また打球音・打球感も抜群なものにします。この中空糸の中に特殊油を注入。この油がガット表面に粘着し、油まくがガットを外気（乾燥、湿気など）から守り、ガットコンディションを完全キープ。



■ステンレスワイヤー巻き付け(PAT. 1212170)

ガットにワイヤーを巻き付け。ワイヤーは一定間かくでらせん状に糸に食い込み、ガットを強く張った状態に固定。ガットの伸びやゆるみを防止。強い打球を促進。

このように特許を取った技術の他にもゴーセンは●**カーボン混入**●**ゲージの超細化**など他にはマネのできない技術でプレーの向上に貢献しています。

Wintex WIRE ウインテックス・ワイヤー

No.1900W……¥800（10m・ゲージ0.85㎜）・
●超強力糸●中空・特殊油入り
●ステンレスワイヤー巻き付け

ゴーセンの技術ノウハウをすべて傾注。スーパーガットとして仕上げました。中空・特殊油・ワイヤーの効果がそれぞれに相乗して、抜群の反発力を生み出します。同時にパワーとスピードにあふれた打球をも可能にし、まさにオールマイティ。多様化するバドミントンのプレーテクニックにみごとに対応できるガットです。

油・ワイヤーにより乾燥や湿気もシャットアウト。常にベストのガットコンディションでプレーにのぞめます。



※類似品にはくれぐれもご注意ください。

●6月号 ウインテックスワイヤーモニター当選者名

北海道	小室美智代	秋田県	高橋良吉	福島県	山崎典子
東京都	佐々木万里	山梨県	石井哲夫	静岡県	植田隆志
大阪府	高田京子	鳥取県	三村俊彦	山口県	山根桂子
鹿児島県	池上浩一	（敬称略）			

GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区常盤町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎ (0762)47-0200(代)

トマス・カップ観戦記

バドミントン王国を訪ねて

渡辺武司



観戦中の筆者

読者の皆さんの中には、例えば何かの競技の観戦中に観客の大歓声で耳が痛くなるような、あるいは、耳を覆いたくなるような体験をした方がいるだろうか。

インドネシアのバドミントン大会。

噂には聞いてはいたがこれほどとは!! 今回のトマス・カップで私はそれを初めて体験することができた。

代々木でのあの静かなバドミントン大会を思い合せる時、インドネシア人の国民性とはいえ、同一の競技とは思えない観客の熱狂ぶり。

大会の詳しい経過は『バド界』におまかせして、一バドミントンファンの見たト杯戦の模様その他感じたままに記してみたい。

ジャカルタに到着したのが5月28日、当日が日本対インドネシア準決勝第1日目。ホテルからスナヤン競技場まで車で10分足らず、夜7時開始の会場は私達が入場した6時30分には、すでに満員。5シングルス、4ダブルスを2日間で行い勝敗を決める。一打ごとの大歓声、少しも静かな時はない。クリアーで返ってきたシャトルは、選手が打つ前から観客がスマッシュを要求して喚声をあげる。そしてそのスマッシュが決った時、通路まで埋まった1万7、8千人の大歓声が響く。想像できるだろうか。

一種異様な雰囲気といっても過言ではない。

会場内外の警備にはなんと小銃を持った陸軍と警官、合わせて約60名が要所要所に立っている。

日本対インドネシアの第2日目、銭谷選手対18歳の高校生の試合は第1ゲームだけ取ったが、結局銭谷選手の逆転負け。勝てない相手ではないと思ったが、恐るべき18歳。インドネシア・バドミントン界の層の厚さを感じる。彼の幼い顔が印象的であった。土田選手もリム・スイ・キン選手に、第1ゲームだけ取ったが、やはり逆転負け。最終的に日本は0—9の大差でインドネシアに敗れた。

準決勝から2日おいて6月1日と2日、インドネシア対デンマークの決勝戦。

今大会当初からインドネシアの優勢は予想されてはいたが、いま世界のバドミントン界で望

む事のできる最高の組合せとなったこの決勝戦も、デンマーク勢の初歩的なサービスミスや、イージーミスの連続で、もう一つ盛り上りを欠き、インドネシアの圧勝に終った。

会場内の気温は30度を完全にオーバーしている。ただ観戦しているだけで汗が吹きだしている。プレーをしている選手はたまらないだろう。特に北国からやってきた選手には。

地元インドネシアが完勝した理由の一つにこの暑さもあるかも知れないが、やはりこれに打ち勝つスタミナをつける事も課題の一つだろう。

インドネシアで私達がコートに入る機会があるかどうか不明であったが、幸いにして持参して行ったラケットを握るチャンスに恵まれた。

トマス・カップの会場であるスナヤン競技場の周辺には、幾つかのバドミントン専用体育館がある。

この体育館は常時ナショナルチームのメンバーや、あるいは現地クラブ員の人達の練習用に利用されているわけである。うらやましいですネ!!

私達はその一つである、Aホールを訪れた。大変な暑さで10分もコートに入っているとめまいがしてくるほどだ。でも私は平気、なぜって、私はバドミントンは弱いが、暑さには強いのだ。

Aホール以外に、私達はジャカルタ市内の高校にも出かけた。

対戦する前に驚いた事は、いずれの選手も黒ヒョウを思わせる精悍（せいかん）な体軀で、バドミントン競技の選手というよりは陸上競技の選手のような体つき、一見していかにも鍛えあげられた身体だ。

ゲームは前陣速攻、スピードはもちろんリターンが速いので大変な苦しさだ。

対戦結果は2ダブルス、4シングルス、いずれもストレート負け。

この高校生達の実力はインドネシア国内でどの程度のものか不明であるが、対戦した同行の大学生（日体大）の選手が完敗したのだから、例えばかりに日本で彼らが試合をすれば、インターハイ優勝は間違いないだろうというのが、私達対戦したものの一致した評価であった。

野外のコートもいたる所にあり、ある日ホテル近くの野外コートに飛入り参加をして、子供達と大いに楽しんだ。

このコートはスコールでもラインが消えないように、竹を4センチ幅ほどに割って地面に埋めてある。それに夜ともなれば、簡易照明器が取り付けられるようになっている。

野外であるからもちろん風もあるのだが、子供達とはいえ、なかなか巧みなもので、サービス等は風も計算して実に正確に決める。プレーも基本どおりで、小学生くらいでハイバックを使う子もいる。

インドネシアにいる日本人の中には、現地人とはほとんどの交流のない人もいるそうだが、今回の私の楽しかった子供達との交流は、日本とインドネシアの親善に大きく貢献したのである（ちょっとそれは言い過ぎかな?）

私は、これまでいくつかの競技の優勝カップを、実物やテレビ等で見てきたが、トマス・カップのように気品と威厳のあるカップをかつて見た事がない。

あの燦然と輝くトマス・カップをいつの日か日本に持ち帰る事もけっして夢ではない。

ジャカルタで開催された今大会、地元インドネシアが前回の決勝対マレーシアに続いての圧勝に終ったが、ここで思う事はやはり中国が大会に参加していれば、さらに白熱したゲームが展開されたのではないだろうか。

最近の中国はやや精彩を欠いてはいるようだが、侯加昌、湯仙虎、陳玉娘。何年か前の日中親善大会で見せてくれた中国選手達のあのパワーあふれる怒濤のようなプレーを、私は忘れる事ができない。



このような野外コートが全国至るところにある

Silver Bowl Badminton International



シルバーボウル国際大会を観戦して

銭谷選手，大熱戦の連続

全種目インドネシアが優勝

メルボルンにて　　**小柳　尚久**

初めてお便りいたします。最初に少しだけ自己紹介をさせていただけますか？　僕は今年の春、英語習得のため日本を離れ、今はオーストラリアからお便りしております。僕、まだ18歳ながらこうして筆をとることは、はなはだ僭越に存じますが、どうかお許しください。

というのは、6月8日から3日間にわたって行なわれましたオーストラリア〝シルバーボウルインターナショナル〟の結果と、数枚の写真を皆様にお見せしたかったからなのです。

どういうわけか、オーストラリアのバドミントンのことは、あまりバド界に登場しませんし、日本ではほとんど知られていないと思いますので、この機会に僕の知っている範囲だけでもお伝えしたいと思います。

僕は、現在慶応大学一年生、とてもゲームの寸評などできる身分ではありませんので、そちらの方は、ごく簡単に感想程度にとどめておきます。どうか僕の全力を投じた写真を通して、選手達の息づかいを感じていただければ光栄に存じます。

さて、日本では今は夏。体育館が蒸し風呂と化する時期ですが、こちらは何と冬なんですね(不思議ですね)。メルボルンは、毎日10℃程のはだ寒い日が続いております。トマス杯帰りの銭谷選手、コンディション作りがなかなかむずかしかったと思います。

にもかかわらず、インドネシア勢と全く互角に戦った銭谷選手は、僕はもちろん、オーストラリアの人々に、鮮烈な印象を与えてくれました。そして日本の女王、湯木選手、近藤選手も、世界を代表するプレーを見せてくれました。昨年のシルバーボウルのチャンピオン銭谷選手は、オーストラリアのプレーヤーなら誰でも知っており、大変人気があります。

そして彼らは、ファーストネームで「キンジ！」と呼んでおります。「ヒロエ」「サオリ」も呼びやすい名らしく、彼等がこうして選手たちをファーストネームで呼ぶのを聞くと、とても親しみを感じます。(話はそれますが、僕の名「ナオヒサ」は、これがまた発音しにくいらしく、何度いっても覚えてくれません。しかたなく自分で自分に「ニール」とあだ名をつけ、簡略化することにしました。皆様の名はいかがですか？)

銭谷選手と予選ラウンドで対戦した、スカンドレラは、銭谷選手に2―0(15―5、15―10)で敗れましたが、試合後、銭谷選手の話によると、「スマッシュだけが、とても速い」彼は農家で働きつつパワーをつけ、それが速いスマッシュを生んだとか……。19歳という若さで、6月24日、バラットで開かれたオープン大会で優勝しています。(全国の農家の皆さん、バドミントンをしましょう!!)

さて、予選ラウンドで銭谷選手のワクには、インドネシアのハリヤントがいました。この両者の試合が、何と僕たちの気をもませたことでしょう。1ゲーム目、8―15と簡単に落とし、2ゲーム目に入ってもリードされ続けました。試合後、銭谷選手の話によると、「負けたと思った」といっておりますとおり、この時点では、誰もが昨年のチャンピオン、キンジが敗れると思ったに違いありません。

しかしここから逆転して、3ゲーム目はマッチポイントをとられながらもセッティングで逃げ切り、大熱戦の幕をとじました。

「見ているだけで疲れたわ」と湯木選手もいっておりました。こうして日本のエース、キンジはベスト4に残ったのです。このファイナルの大熱戦だけで、十分僕は満足したのですが、何とセミファイナルで、これよりすばらしい死闘を演じたのです。

相手はやはりインドネシアの、ダニー・サルティカ。スコアを見て、どんなゲームか想像していただけると思いますが、(銭谷7―15、18―15、12―15ダニー)一つ一つのラリーが長く、最後はダニーの無尽蔵のスタミナに、惜しくもキンジは敗れてしまいました。

ファイナルゲーム、12―9と銭谷選手のリードの時、何と数十ラリーに及ぶ長いラリーの末、メチャクチャにこわれたシャトルが、ネットを越えてくれず、銭谷選手はこのラリーを落としたのでした。同時に、このラリーが試合の流れを変えたといえると思います。

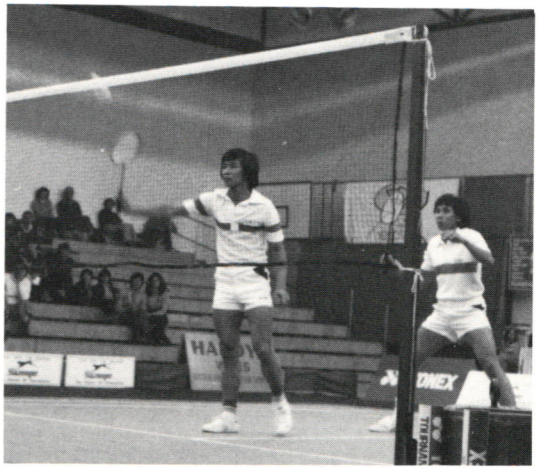
もしこのこわれたシャトルが、ネット上で微笑んでくれれば、銭谷選手は先に13をとることができたのですが、無情にも、白帯の上で躍ったあげく、手前にころがってしまったのです。

試合後、「**When the score was 12―9, I had very long rally, so I got tired.**」と、英語で銭谷選手は説明していました。

一方、女子の方ですが、オーストラリアの女子のレベルは、あまりに日本と違いすぎ、湯木、近藤両選手とも、楽々とセミファイナルに勝ち進んで来ました。しかしここでもインドネシア勢が、日本の行手をさえぎっていました。〝ベラワティ〟です。

セミファイナル、対湯木選手を(11―4、11―7)決勝、対近藤選手を(12―10、11―8)といずれも2―0のストレートでくだし、昨年に続いて、栄冠を得たのでした。決勝では、近藤選手が、常にリードを保つ試合運びでしたが、湯木選手が評するには、「今までのベラとは違って、自信を持ってプレーしている。」ですから、少々のリードでは安心できないというわけです。(近藤選手、この次は頑張って下さい。)

男子ダブルス決勝では、唯一のオーストラリア選手、ハリーが残っておりましたが、やはりインドネシアペアのスピードは群を抜いており、ここでもインドネシアが優勝。女子ダブルスも、〝ベラワティ、イメルダ組に対し湯木、近藤組は守りにまわることが多く、残念ながら全種目インドネシアが優勝という結果になりました。



カルトノ・ハリヤント組

勝者には大きなカップと巨大な白ワインボトルが渡され、この大会を終了しました。これだけ内容のある大会なのに、オーストラリアは日本と違い、交通が不便なせいか、観客が少ないのは、残念に思いました。

テレビ放映された最終日には、何とか席はうまりましたが、それにしてももっと多くの人が、このスポーツを理解し、支えてほしいと思いました。

また数日後の新聞には、シルバーボウルは15年続いてきたけれど、とても国の援助なしでは来年から続けられないと、財政的問題も起ってきています。僕はこの大会が、年々大きくなってゆき、もっと世界中の人々が関心を集めるようなものに成長してもらいたいと思いました。

蛇足になりますが、この試合を最後に、デンマークのプリ選手が、現役を退くというニュースを聞きました。プリにとっては最後の大会、ぜひ勝って帰りたかったでしょう。敗れたとはいえ、プリのプレーはご存じのとおり、オーストラリアでも強く僕たちの頭に焼きついて離れないものとなりました。今や、疑いなく、〝世界のプリ〟といえると確信しております。

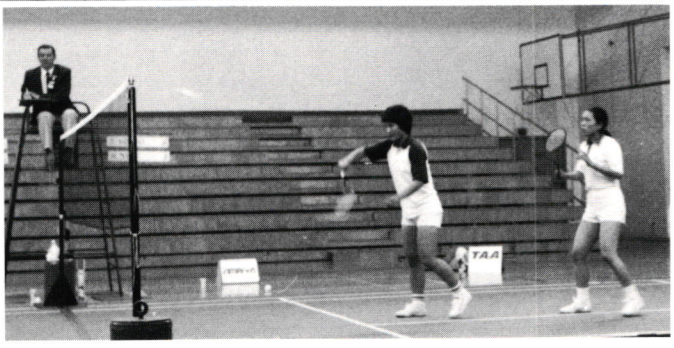
一九七九年六月二八日

メルボルンにて

La Trobe University　小柳尚久



クロイドン・レジャー・センターの外観



予選ラウンドでの湯木・近藤

第15回シルバーボウル・バドミントン・トーナメント

（6・8―10、クロイドン）

▽男子シングルス予選ラウンド

プリ 2 (15 15―8 15―1) 0 ハリー（A）

プリ 2 (15 15―2 15―10) 0 ベレンガー（A）

プリ 2 (15 15―1 15―11) 0 タイレル（A）

プリ 2 (15 15―5 15―5) 0 カルトノ（I）

ジョリー（E） 2 (15 15―8 15―1) 0 ハリー（A）

ジョリー 2 (15 15―3 15―4 12―15) 1 コング（A）

ジョリー 2 (15 15―2 15―9) 0 ルーカス（A）

ダニー（I） 2 (15 14―1 17―15 15―8) 1 クーパー（A）

ダニー 2 (15 15―7 15―4) 0 ターナー（A）

ダニー 2 (15 15―5 15―9) 0 ブラツダ（A）

銭谷 2 (17 15―14 8―12 15―15) 1 ハリヤント（I）

銭谷 2 (15 15―10 15―5) 0 スカンドレラ（A）

銭谷 2 (15 15―12 15―4) 0 ロバーツ（A）

▽準決勝

プリ 2 (15 15―10 15―13) 0 ジョリー

ダニー 2 (15 15―12 15―18 15―7) 1 銭谷

▽決勝

ダニー 2 (15 7―15 17―16) 1 プリ

▽女子シングルス予選ラウンド

近藤 2 (11 11―2 11―2) 0 スワビー（A）

近藤 2 (11 11―2 12―11) 0 イバナ

ベラワティ 2 (11 12―8 11―11) 0 近藤

▽決勝

ベラワティ 2 (11 11―7 11―4) 0 湯木

▽準決勝

ベラワティ 2 (11 11―5 11―5) 0 ハイト（A）

ベラワティ（I） 2 (11 11―2 11―1) 0 フーバー（A）

湯木 2 (11 11―1 11―3) 0 マクドナルド（A）

湯木 2 (11 11―2 11―2) 0 ニラティ（A）

イバナ 2 (11 11―7 11―0) 0 タイレル（A）

イバナ（I） 2 (11 7―11 11―2) 1 ブリッジ（E）

近藤 2 (11 11―2 11―1) 0 ブラント（A）

▽男子ダブルス予選ラウンド

ハリヤント、カル 2 (15 15―3 15―2) 0 カットトノ（A）

ハリヤント、カル 2 (15 15―7 15―4) 0 ベレンガー（A）

ハリヤント、カル 2 (15 15―4 15―5) 0 タイレル（E・A）

ジョリー ロバーツ

ベラワティ、イメ 2 (15 15―3 15―4) 0 湯木 近藤

ベラワティ、イメ 2 (15 15―1 15―5) 0 ルド、タイレル（A）

マクドナ

ブリッジ

ベラワティ、イメ 2 (15 15―8 15―5) 0 フーバー（E・A）

ルダ（I）

湯木 近藤 2 (15 15―2 15―2) 0 ハイト スワビー（A）

近藤 2 (15 15―6 15―9) 0 イバナ ニラティ（A・I）

湯木 ルダ

▽決勝

ベラワティ、イメ 2 (15 15―3 15―4) 0 湯木 近藤

ルダ

（D＝デンマーク、I＝インドネシア、A＝オーストラリア、E＝イギリス）

▽女子ダブルス予選ラウンド

ハリヤント、カル 2 (15 15―13 0) 0 ハリー ダニー

▽決勝

ハリー ダニー 1 (12 15―15 18―17 11―15) 2 クーパー コング（A）

ハリー ダニー 2 (18 15―16 5) 0 プリ、スカンドレラ（D・A）

ハリー 2 (15 15―6 15―10) 0 銭谷 ルーカス

〈37ページに写真掲載！〉

昭和54年度関東学生バドミントン選手権

すい星・山本美津子，関東を制す

――西山時代いよいよ到来か

Bブロック689人の混戦を抜け出し、佐藤が優勝

女子は専大同士の対決で、鈴木ニッコリ

昭和54年度関東学生バドミントン選手権大会は、延べ19日間にわたって行なわれた。梅雨明けを思わせる晴天続きの前半を、大田区立体育館、中央区立体育館、江東区スポーツ会館で、そして例年通り、驟雨にたたられた後半戦を駒沢体育館に移して熱戦が繰り広げられた。

Aブロック男子シングルスは、一八九人が参加したが、4年生が教育実習による練習不足のためか、優勝候補にあげられていた第1シードの坂本（日大4年）第3シードの宮森（法大4年）がベスト8入りで姿を消し、第2シードの水内（早大4年）に至っては3回戦で青木（日大2年）に苦杯を喫する番狂わせの連続であった。

その中で、第4シードの西山（中大2年）が石黒（早大4年）冨田（法大4年）林田（青学4年）を連破して危げなく初優勝を飾った。強靱な脚力に支えられた瞬時々々の速いフットワークから繰り出すスマッシュと、守勢に回った時も安定さを増したプレースメントで、男子シングルスにおける西山時代の到来が強く印象づけられた。

決勝に残った北橋（日体大3年）も宮森を破って調子に乗り、軽いフットワークと独特の同一モーションからの前後のゆさぶりで、進境著しいところを見せた。

林田（青学4年）も坂本を破り、気迫のこもった試合で初のベスト4入りである。また、2部リーグからはただ一人、長谷川（明大3年）がベスト8に進出し気を吐いた。

Aブロック男子ダブルスは、九十三組が参加し、第1シードの冨田・酒井（法大4年）が危い橋を渡りながらも、貫録をみせて初優勝を飾った。準決勝では、第4シードの小倉・小浜（青学4・3年）と、事実上の決勝戦と思われる壮絶なファイナル、セッティングの死闘を演じた。

決勝進出を果たした上原・宮本（中大3・2年）も試合ごとに力をつけ、パワーあふれるペアで、準決勝では優勝候補の水内・平野（早大4・3年）をストレートでくだし、将来が楽しみといえよう。

Aブロック女子シングルスは、七十七人が参加した。石田（日女体4年）高岸（東女体4年）の両横綱が教育実習のため欠場し、混戦は予想されたところであったが、あまりにも意外な結果が待ち受けていた。

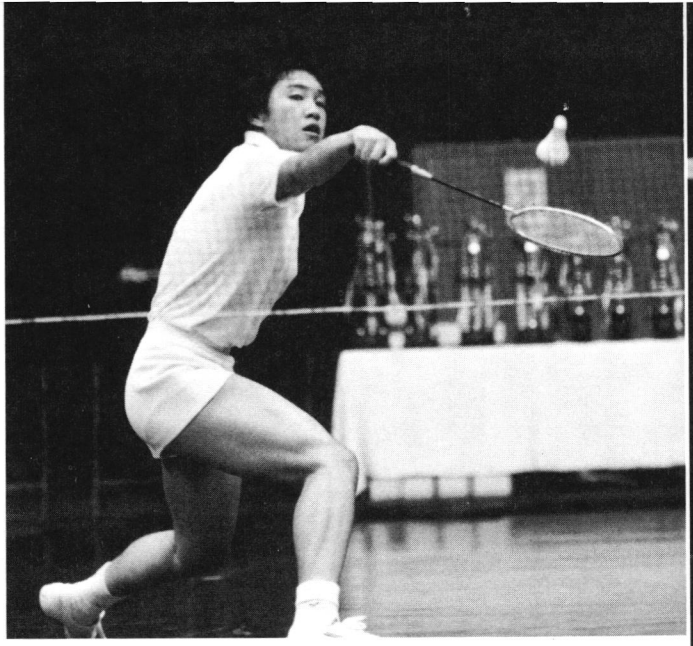
山本（筑波大3年）の優勝である。第1シードの内田（日女体3年）を準々決勝で、川島（東女体3年）を準決勝で、そして決勝では藤井（日体大3年）に圧勝しての初栄冠である。これは、学生バドミントン界今シーズン前半の最もエポックメイキングな出来事といえよう。

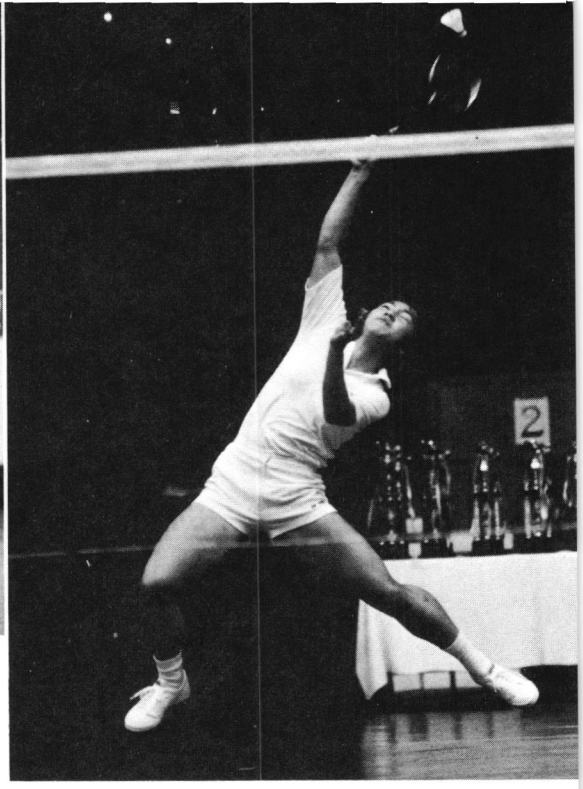
恵まれた身体から繰り出す角度のあるスマッシュ、カットを武器とする久しぶりの大型選手の登場である。昨年に比べ、守勢に回ってもあわてない、落ち着いたプレーぶりからは、一段の進歩がうかがえた。

2位の藤井は、ダブルスプレーヤーとして、去年の関東選手権でも優勝した実績を持つが、やや非力な面は否めない。しかしそれを速い動きでカバーし今回の決勝進出となった。

ベスト4の枝（日体大3年）は、攻撃力には抜群のものを持つが、守勢にまわった時のもろさを暴露し、藤井に屈した。

川島（東女体2年）も大型選手として着実に力をつけてきたが、2ゲーム目後半からファイナルゲームでは、スタミナ不足のためか、フットワークが極端に遅くなる。これはふだんからの走りこみ不足にも原因がありそうで、内田にも言えることで





▲攻撃型の久しぶりの〝本格派〟山本▶

ある。

今大会の山本の活躍の陰に隠れた感じだが、彼島(青学2年)と、サスウポーの田村(日体大1年)がベスト8入りを果たし、将来の活躍が楽しみである。

Aブロック女子ダブルスは、三十八組が参加し、決勝は昨年と同じく、藤井・松枝(日体大3年)と、柴田・川島(東女体3・2年)の顔合わせとなった。このところ着実に力をつけてきた東女体ペアが、日体大ペアのゆさぶりをものともせず、初優勝を飾った。

日女体勢は、石田、渡辺が不出場とはいえ、シングルスベスト8、ダブルスベスト4止まりだったのは、やや残念な結果といえよう。

◇Aブロック男子シングルス

▼準々決勝

林田(青学)2 — 17 15 / 14 15 / 10 — 0 長谷川(明大)

西山(中大)2 — 18 10 / 13 15 / 15 10 — 1 冨田(法大)

北橋2 — 15 8 / 3 15 / 15 10 — 1 細谷(中大)

吉岡(中大)2 — 15 12 / 7 15 / 15 12 — 1 丹藤(法大)

▼準決勝

西山2 — 15 18 / 6 13 — 0 林田

北橋2 — 15 15 / 6 6 — 0 吉岡

▼決勝

西山2 — 15 15 / 6 4 — 0 北橋

◇Aブロック男子ダブルス

▼準々決勝

冨田 酒井2 — 15 15 / 11 2 — 0 四家 稲垣(日大)

小倉 小浜2 — 15 15 15 / 10 3 18 — 1 山本 若生(日体大)

水内 平野2 — 15 15 / 5 13 — 0 坂本 田村(日大)

上原(早大) 宮本2 — 15 15 / 8 5 — 0 酒井 高橋(早大)

▼準決勝

冨田 酒井2 — 18 7 15 / 16 15 3 — 1 小倉 小浜

上原 宮本2 — 15 18 / 10 17 — 0 水内 平野

▼決勝

冨田 酒井2 — 18 15 / 16 7 — 0 上原 宮本

◇Aブロック女子シングルス

▼準々決勝

山本(筑波大)2 — 11 4 11 / 1 11 6 — 1 内田(日女体)

川島(東女体)2 — 11 8 11 / 2 11 2 — 1 彼島(青学)

枝(日体大)2 — 11 7 11 / 7 11 3 — 1 青木(日女体)

藤井(日体大)2 — 11 8 11 / 1 11 4 — 1 田村(日体大)

▼準決勝

山本2 — 12 11 / 11 2 — 0 川島

藤井2 — 12 7 11 / 10 11 7 — 1 枝

▼決勝

山本2 — 11 11 / 3 5 — 0 藤井

◇Aブロック女子ダブルス

▼準々決勝

藤井 松枝(日体大)2 — 18 15 / 13 9 — 0 小野(日女体) 高峯

鹿野 山沢(日体大)2 — 15 15 / 3 9 — 0 西村(日体大) 田村

青木 内田 2 (15 15 / 1 5) 0 中島 樋渡（日女体）（日体大）
柴田 川島 2 (15 15 / 9 4) 0 山下 井上（東女体）（日女体）
▼準決勝
藤井 松枝 2 (15 15 11 / 12 12 15) 1 鹿野 山沢
柴田 川島 2 (15 15 / 12 3) 0 青木 内田
▼決勝
柴田 川島 2 (15 15 / 10 6) 0 藤井 松枝

◇Bブロック男子シングルス
▼準決勝
佐藤（日体大）2 (15 15 6 / 12 6 15) 1 山田（日体大）
山本（東海大）2 (15 15 / 12 10) 0 金子（立大）
▼決勝
佐藤 2 (15 15 / 13 10) 0 山本

◇Bブロック男子ダブルス
▼準決勝
柳生 浦野 2 (15 15 / 10 5) 0 目野 田部井（千商大）（日体大）
加藤 大沢 2 (15 12 15 / 18 17) 1 武野 浦崎（東経大）（日体大）
▼決勝
柳生 浦野 2 (15 15 / 11 6) 0 加藤 大沢

◇Bブロック女子シングルス
▼準決勝
鈴木（専大）2 (11 11 / 1 3) 0 遠藤（専大）
阿久沢（専大）2 (11 11 / 2 4) 0 片岡（東女体）
▼決勝
鈴木 2 (11 11 / 3 7) 0 阿久沢

◇Bブロック女子ダブルス
▼準決勝
和泉 井上 2 (15 15 / 10 8) 0 片岡 臼井（東女体）
鈴木（専大）阿久沢 2 (17 17 / 15 16) 0 平野 市ノ瀬（東女体）
▼決勝
鈴木 阿久沢 2 (15 15 / 13 12) 0 和泉 井上

西山×林田

奇しくも林田（昭和50年）西山（昭和52年）両インターハイチャンピオン同士の対決となった。今大会、林田は4年という最終学年のためか、素晴らしい気迫で第1シードの坂本を下してのベスト4進出である。対する西山は、弱冠2年生ながら全日本ナショナルチームの候補に、学生からはただ一人選ばれている大器である。

春季リーグ戦で、林田はラブゲームを食らった屈辱を晴らすべくゲーム開始から果敢に打って出た。ネットより浮いた球に対しては、全てがスマッシュといっていいほど、クロスヘボディへと打ち分け、リターンの浅い球も残らず、飛びついてスマッシュで攻め続けた。

対する西山も定石通りの四隅をつくドリブンクリアーと要所要所にみせるスマッシュで対抗した。しかし特に林田のよく体重の乗ったクロススマッシュに西山の身体が泳ぎ、たびたびノータッチの場面が続く。

ここで林田が13—8とリード。しかし西山はハーフスピードのカット気味のスマッシュをクロスに多用し、ネット前はスピンのきいたヘアピンで林田を守勢に回した。これが林田のあせりをさそいスマッシュミスを誘発させた。

何なく13オールと追いついた

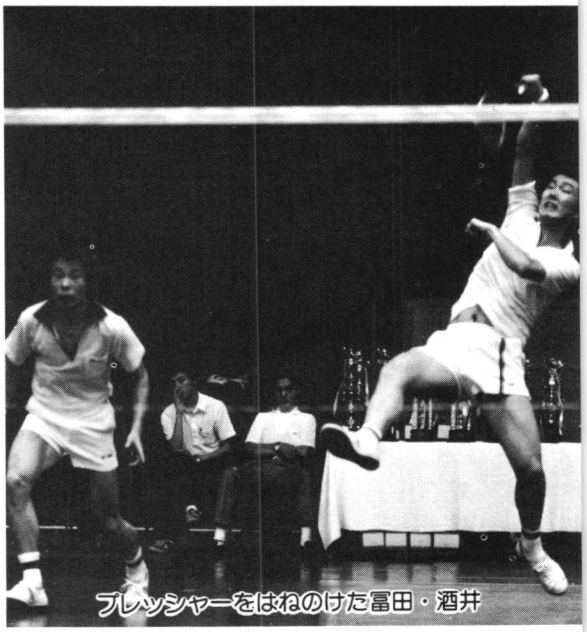


◀イキの合ったコンビを見せた柴田・川島

公示

▼昭和55年度シャトル、ラインテープの検定について
(1)日時　昭和54年9月24日(月)10時から。
(2)場所　茗台中学校体育館
東京都文京区春日2—9—5
（地下鉄茗荷谷下車徒歩7分
都バス小石川4丁目下車徒歩2分）
(3)提出数量　シャトル水鳥、一銘柄につき右羽根一打左羽根一打。陸鳥、一銘柄につき二打。合成、一銘柄につき六打。
ラインテープ、一銘柄につき2コート分。
(4)規定　本会用具検定規定による。
(5)検定料　シャトル一銘柄につき三〇、〇〇〇円
ラインテープ一銘柄につき一〇、〇〇〇円

▼昭和55年度ラケット、ウェア、シューズ、ストリングスの審査について
(1)日時　昭和54年9月23日(日)11時から。
(2)場所　岸記念体育館会議室
(3)提出数量　ラケット、シューズ、ストリングス一銘柄につき2点。
ウェア、新製品のみ写真（5枚）と現品。
(4)審査料　一銘柄につきラケット、シューズ、ストリングス三、〇〇〇円。
ウェア、一銘柄につき五、〇〇〇円。
○申込期限　昭和54年9月5日
○申込先　東京都渋谷区神南1ノ1ノ1　岸記念体育館内
日本バドミントン協会事務局
03・467・3111　内線351


プレッシャーをはねのけた冨田・酒井

西山は、セッティングでは逆にスマッシュをコーナーいっぱいに決め、1ゲーム目を先取した。

2ゲーム目に入ると、林田の配球の粗さが目につく。ネット前も西山より数段低い位置での球の処理は、逆に相手にプッシュをしろと言わんばかり。中盤の追いあげもむなしく、最後は集中力がいっぺんになくなったかのように一気にかたがついた。

西山は、コート内での動きのよさが他のどの選手よりも秀いで、それがシャトルの下へはいり込む速さの秘訣となっているようである。実際、ハイバックを用いる機会がきわめて少なく、常に十分の体勢から放つスマッシュを連打できる体力をも兼ね備えている。

林田は、レシーブにまわった時のイージーミスと、ネットの低さで西山に一歩ひけをとったものの、攻撃型選手同士の、迫力ある一戦であった。

（学連・野口）

西山×北橋

宮森、細谷、多田と居並ぶ強豪を撃破して決勝進出を果たした北橋は、今大会の台風の目。

一方、石黒、林田を退け、優勝候補の冨田とファイナルセッティングの大勝負を演じた西山は、ガ然優勝候補の本命。安定した地力に対し、今回乗りに乗っている北橋がどのような勝負をいどむかが、決勝戦のみどころとなった。

この二人、どちらも滋賀県は比叡山高校の出身。インターハイでは、母校を背負って立った一年違いのエース同士である。

1ゲーム目、西山の足回りには、目を見張るものがある。下半身の安定度がそのままショットの正確さとなって、ゆとりある試合運びをする西山。対する北橋には、ミスがめだつ。

2ゲーム目に入っても試合の流れは変らず、西山は北橋のミスをじっくり待って攻める。決勝と呼ぶには、西山の強さばかりが目立った試合内容であった。

（学連・渡辺）

冨田・酒井×上原・宮本

昨年のインカレ第3位、1年の時からペアを組み、名実共に学生界No.1の冨田・酒井。対する上原・宮本はペアを組んでまだ4ヵ月足らずの新鋭。

出だし、レシーブミスの目立つ冨田・酒井はやや緊張した面持ち。冨田のスマッシュと酒井の前衛がうまくかみ合わない。

それに対し若い上原・宮本は果敢に打って出る。しかし中盤から一進一退のゲーム展開となると、そこは冨田・酒井の方が一枚上手というもの。レシーブにまわりながらも、自らのペースを立て直し、1ゲーム目を先取した。

2ゲーム目はなかなか見ごたえのあるラリーの応酬。追いつ追われつのままセッティングへともつれ込んだが、数多くの修羅場をくぐりぬけてきた経験豊富な冨田・酒井が1ゲーム目同様逃げきり、勝負を決めた。

試合後、冨田選手の話にもあるように、第1シードであるというプレッシャーでいつもより身体のきれが悪く、思い通りの試合内容ではなかったようだ。

優勝の喜びよりは、やっとおろせた重荷にホッとした冨田・酒井両選手だった。

（学連・恩田）

山本×川島

山本が第1シードの内田を破り、川島が第4シードの鹿野を破るといった予想外の顔合わせとなった。山本は、昨年の新人戦でも活躍し、進境著しい成長ぶりといえる。川島は、早くから大型新人と期待されている選手で、攻撃のよさに定評がある。

1ゲーム目、山本が四隅をていねいにつくプレーでいきなり5―0とリード。これに対し川島は、スマッシュをネットにひっかけるなどのミスが目立ち、彼女のプレーが見られない。

2ゲーム目に入っても川島の動きはにぶく、山本のていねいなプレーが光るばかり。

後半、やっと調子をとりもどした川島はセッティングへとゲームを持ち込んだが、時すでに遅し。山本の決勝進出が決った。

（学連・大田）

山本×藤井

両者3年生同士。藤井は技巧派、山本は男子顔負けのパワフルなプレー。

1、2ゲームを通し、山本の力強いスマッシュとクロスへの速いカットが思うように決まった。藤井も速いクリアーとネットプレーで対抗したが、ままならずといった感じだった。

山本は身長の高い選手にしては、動きも速く、こまかいプレーもうまくこなしていた。これからが楽しみといったところか。

試合後、「インカレではぜひ8入りをし、オールジャパンに出場したい」と語っていたのが印象的だった。

（学連・松村）

柴田・川島×藤井・松枝

予想通りの顔合わせとなったこの対戦、昨年は藤井・松枝に軍配があがっている。

1ゲーム目、どちらも自分たちのペースがつかめない。しかし先に攻撃のチャンスをつかんだ柴田・川島が逃げきり2ゲーム目に入る。

今日の柴田はサーブが非常に良かった。また、ミスが多いと言われていた川島も、柴田の好リードでスマッシュが冴え、2人の息はピッタリ。

最後の1ポイントがスマッシュのネットインで決まった、ということにも表われているように、この大会、柴田・川島がいかに精神面、技術面で充実していたかを語っている。

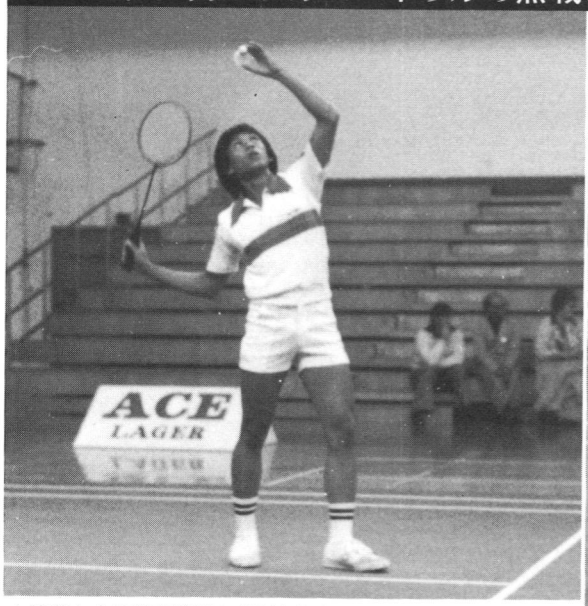
2人は、準決勝の内田・青木戦に比べると、試合前はずいぶんリラックスしていたと言っている。ただ思いきりプレーすることだけを頭においていたという。その無心が勝利につながったのだろう。

春季リーグでは互いにペアを組みかえていたが、色々な人とのダブルスで技術的な勉強ができ、今大会ではその成果がみごとに実り、満足げにインタビューに答えてくれた。

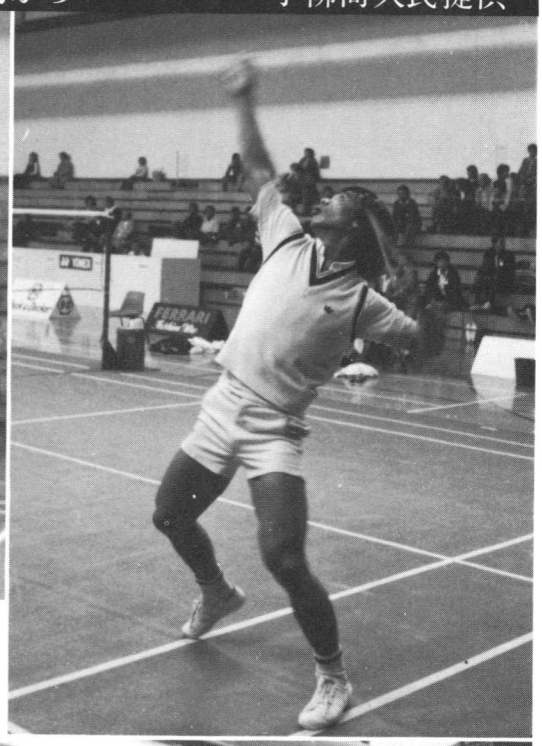
（学連・片岡）

オーストラリア・シルバーボウルの熱戦から

小柳尚久氏提供



▲銭谷と大接戦を演じたハリヤント



優勝したダニー▶

湯木と対戦するペラワティ▼

▼談笑するイメルダと銭谷





神奈川県立城山高校バドミントン部〝部誌〟「しゃとる」刊行によせて

笑い、怒り、喜び、悲しんだ1年間



同部女子顧問　小川　修

トッププレーヤーから初心者まで、老若男女を問わずバドミントンの〝熱中〟人口は、増加の一途をたどっていますが、クラブを創設し、一人前の立派なクラブを育てることは容易なことではありません。

ここに紹介いたします、部誌「しゃとる」には、神奈川県城山高校バドミントン部の、誕生から今日までが赤裸々に綴られています。

誰にでも体験のある、入部、練習、試合の感動を、今一度この「しゃとる」を通して、思い出してみてはいかがでしょう。

昭和五十三年四月、バドミントン部顧問に素人の私が就任いたしました。

バドミントンについても、部経営についても何一つ知りませんでした。したがってこの一年間はまったくの手さぐりの状態で、当初12名いた部員達も私を顧問として迎え、練習にも部経営にも私の気持と食い違いがはなはだしく、大変苦労いたしました。幸いなことに、本校の部員は素真な性格であり、練習熱心で、言いかえればバドミントンが好きで好きでしょうがないという気持を持っていました。

なぜこんなに夢中になり、バドミントンにのめり込んでしまったのか、それは前述した生徒のバドミントンを愛する気持と、元来、スポーツ好きでスポーツを通して生徒と接触を計り、学校生活を相互に充実したものにしたいと思っていた私にとって格好の場でありました。

体当たりで毎日一緒に汗を流し、その中でプレーすることの苦しさ楽しさを少しずつ感じられるようになり、練習や試合後等に日誌をつけさせ、感想文を書かせることにより、徐々に部員の考えや部の活動に対する姿勢を感じ取りました。

部誌「しゃとる」は、部員達に日頃の練習の反省を求め整理をすることによって、次への進歩を促したものです。部員の全員がバドミントンを高校で始めました。記載されているものは、わかり切った初歩的なことばかりですが、部員と私の成長の過程なのです。

本校は、この三月に二回目の卒業生を送り出しました。当部の四人の卒業生にとって、部誌「しゃとる」は素晴らしい記念品となりました。部員達は一年間、コツコツと努力を積み重ね、この「しゃとる」によって区切りをつけ、なお一層のレベルアップに努めています。

四月、新入生を迎え、一挙に倍の二十八名に部員数も増え、皆、張り切ってトレーニングに励んでいます。



◀バドミントン部一同

◆思い出

何もできなかった私が

小山秀子

初めて部活に出たことを今でも覚えています。いきなり校舎東側の階段を五階まで十往復、走らされました。やはり先輩は速く、「ファイトー」と声をかけてくれました。まだ校庭も整地ができてなく、フェンスが張ってある所が草が生えている土手だった。野球部・サッカー部・剣道部、そしてバドミントン部と入り乱れてやっていた。キャッチボールをしている所を、すりぬけてマラソンをした。サッカーボールが頭にぶつかった人もいたっけ。それから八王子体育館への遠征。館内は暑くて仕方がなかった。だけど唯一のシャトルが飛ぶ場所だった。

そして試合。城山女子バドミントン部は、いつも負けてばかり。出れば負けるで、無勝を誇るようなそんな部だった。試合で帰りが遅くなるのは、一度もなかった。そのうちに「城山と当たるのでよかった」。そんなふうにまで言われるような私達だった。

九月二十三日。麻溝台高校での新人戦で、皆で泣いたこと。私は絶対忘れない、忘れられない。二年生が三人になってしまったけど、皆頑張ると言ってくれた時の泣顔と言葉が強く思い出される。そして初めての城山高校からの優勝。初めての勝つ喜び、涙。くちゃくちゃになるまで泣いてしまった。他人にしてみれば、なんでもないが、四年間の道のりだった。

努力をしよう

浜野登志子

反省することも大切だけど、でもくよくよしないで、嬉しかったことを思い出して、その感動をもう一度感じるために努力することを大切したい。そう、例えば、初めて試合に勝った時のこととか（真実は、練習試合で勝ったのですが、私にとって唯一の勝利だったのです）。

私には前進あるのみ！

皆さん、「ファイト」ですよ。

じゃあ　またね

川俣由美子

練習が終わって飲むその時の水のうまさ!!（「おいしさ」と言う言葉ではダメなの）ペッコペコのおなかに、アイスクリームや肉まんは、どうしようもない誘惑でした。

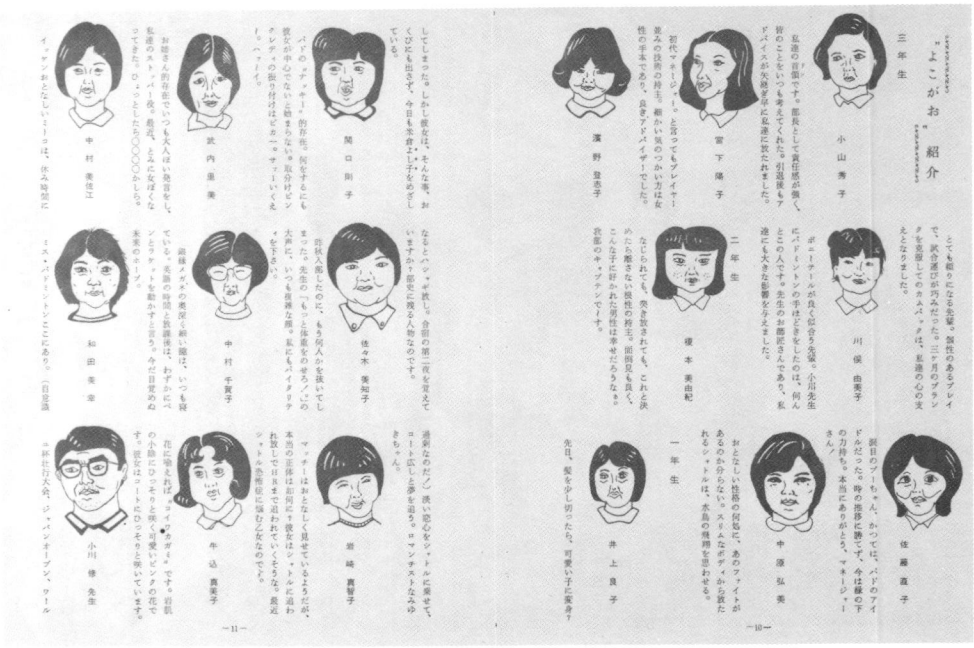
心を割って話をし、笑い、泣くことのできる時は、今しかないと思っています。青空を見て、素直な心で、「ああ！きれいだなあ」と思える心を、いつも持ち続けていきたいと思っています。

しばらくして、ひょっこりと、ラケットを抱えて行くかもしれません。その時は、大っきな声で呼んで下さいね。その時までお元気で。じゃあ、またね。

一、二年生へ一言

宮下陽子

高校へ入学して思いました。高校生活を、ただ勉強する場だけで終わらせてはつまらない。とにかく体を動かそう……そう思ってバドミントンを選びました。その頃の部活動と言ったら、今の一、二年生には想像できない状況の中で行われたのでした。グランドは整備されておらず、雨の降った後はグシャグシャ、風の強い日は砂ぼこり、まわりの土手は草ぼうぼう、石ころだらけ……でもそのような中でも、とてもよくまとまっていました。


"よこがお"紹介

三年生

小山秀子

私達の自慢です。面倒見よくて責任感が強く、皆のことをいつも考えてくれた。引退後もアドバイスが矢継ぎ早に私達にとばされました。

菅下陽子

初代マネージャーと言ってもプレイヤー並みの技術の持主。細かい気のつかい方は女性の手本であり、良きアドバイザーでした。

濱野登志子

二年生

川俣由美子

ボニーテールが良く似合う美貌。小川先生にバドミントンの手ほどきをしたのは、何んとこの人です。先生のお師匠さんであり、私達にも大きな影響を与えました。

後本美由紀

なられても、突き放されても、これと決めたら離さない執念の持主。面倒見も良く、こんな子に好かれた男性は幸せだろうなぁ。宮部のヤッテケンでーす。

中藤弘美

おとなしい性格の何処に、あのファイトがあるのか分らない。スリムなボディから放たれるシャトルは、水島の機関を思わせる。

一年生

井上良子

先日、髪を少し切ったら、可愛い子に変身?

佐藤直美

弱目のプーちゃん、かつては、バドのアイドルだった。時の推移に勝てず、今は緑の下の力持ち。本当にありがとう、マネージャーさん!

こども組りになる先輩。強性のあるプレイで、試合運びが巧みだった。三ヶ月のブランクを克服してのカムバック。私達の心の支えとなりました。

川俣由美子

ボニーテールが良く似合う美貌。小川先生にバドミントンの手ほどきをしたのは、何んとこの人です。先生のお師匠さんであり、私達にも大きな影響を与えました。

後本美由紀

なられても、突き放されても、これと決めたら離さない執念の持主。面倒見も良く、こんな子に好かれた男性は幸せだろうなぁ。宮部のヤッテケンでーす。

一年生

井上良子

先日、髪を少し切ったら、可愛い子に変身?

佐藤直美

弱目のプーちゃん、かつては、バドのアイドルだった。時の推移に勝てず、今は緑の下の力持ち。本当にありがとう、マネージャーさん!

濱野登志子

初代マネージャーと言ってもプレイヤー並みの技術の持主。細かい気のつかい方は女性の手本であり、良きアドバイザーでした。

菅下陽子

私達の自慢です。面倒見よくて責任感が強く、皆のことをいつも考えてくれた。引退後もアドバイスが矢継ぎ早に私達にとばされました。

小山秀子

三年生

"よこがお"紹介

関口則子

バドの"ファー"的存在。何をするにも彼女が中心でないと始まらない。取分けピンクレディーの振り付けはピカ一。サーブいくえもレーシーハーイ。

武内里美

お嬢さん的存在でいつも大人ぽい発言をし、私達のスーパー役。最近、とんとなりをくなってきた。ひょっとしたら○○○○かしら。

中村恵江

イヤンなっちゃうわ。佐々木さんは、そんな事、おくびにも出さず、今日も笑顔で…と子をめぐしてしまった。しかし彼女は、そんな事、おくびにも出さず、今日も笑顔で…と子をめぐしている。

佐々木美知子

なるとハッキリ欲しい。合宿の第二夜を宵えていますか?彼女に残る人物なのです。

岩崎真智子

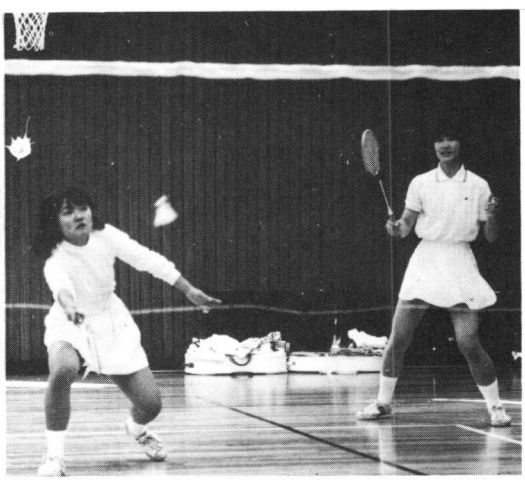
マッチョはおとなしく見せているようだが、本当の正体は如何に女はシャトルに追われ放しで日本まで追われていくそうな。最近シャトル恐怖症に悩む女なのでした。

牛込真美子

花に寄る君は…ラブ・ミー・テンダーです。前髪の小顔にひっそりと咲く可愛いピンクの花です。彼女はコートにひっそりと咲いています。

小川修先生





"お願〜い"

"私の食べないで"

◆先輩から後輩へ

しゃとるに託して

佐藤直美

私がバドミントンの味を覚えたのは、相原高の校庭の片隅の土臭く、ほこり臭い毎日の練習からだった。草はら(しかも勾配のある)にネットを張り、風向きに逆らってシャトルを打ったあの日。夢中だった。試合のことなんか考える余裕はなかった。毎日の練習のノルマを完全に消化することしか頭になかった。時には一周五〇〇メートルの農道を十周まわった。夏は農道を囲む一面のトウモロコシ畑が、自分達の身長より高くなると、適当に隠れてゆっくり走ったりした。

初めて決まったスマッシュ。この味こそ、本物のバドミントンの味なんだと言い聞かせ、周囲の反対を無理矢理押し切って、私はバドミントンを続けた。私がバドミントンを捨てなかったのは、後輩達に本物のバドミントンの味を知ってほしかったからだ。そして燃えてほしかった。私達が満足にプレーできなかった代わりに、思う存分味わってもらいたかったのだ。

シャトルは生きている。再び鳥に帰ったかのように宙を飛翔する。そしてそれを生かすも殺すも本人次第であることを忘れないでほしい。


今朝の調子は？

◆一年を振り返って

今日までを振り返って

榎本美由紀

私が入部した時、新入部員は9人でした。でも皆、色々な事情があり、一人やめ、二人やめ……現在残っているのは、私と中原さんの二人きりになってしまいました。

人数が少ないのは仕方がないことだと思っても、試合形式でやりたくてもできない時、人数が多い軟式テニスの女子などが、羨ましく、妬ましくさえ感じました。今日までやってこられたのは、中原さんと2人だからだと思います。私が弱気になっている時、自分だって辛いのに、私を励ましてくれて、本当に中原さんには、言葉で言い表せないくらいの感謝の気持でいっぱいです。

この一年

中原弘美

今、振り返ると、この一年は長いようで短かかった。私は、バドミントンが特別好きで入部したわけではなかった。「バドミントンが好きだ」と気づいたのは、最近だった。

初め、私達が入部した時には、九人ぐらいいたと思う。それが今では、たったの三人、自分でもよくここまできたと思う。私は一年の時、どちらかと言えば、真面目に練習に出た方だとは言えなかった。それが人数が少なくなり、三人だけになった時は、休みたくても休めなかった。「自分が休めば、榎本さんが一人になってしまう」そう思って。多分、榎本さんも、そういう気持ちになったことがあると思う。

一年生は、一人も欠けることなくこのまま、いつまでも頑張っていってもらいたい。

マネージャーとして

佐藤直子

マネージャーとして入部して、もう一年余り。満足な仕事も余りできないまま、一年も経ってしまったのかと今になって、悔やまれます。でもそんな怠慢なマネージャーがいたにもかかわらず、皆よく頑張ってきたと思います。今まで本当にいろいろなことがあって、バドミントン部がなくなってしまうようなところまで落ち込んだけれど、榎本さんと中原さんの頑張りがきいてここまできたのだと思うのです。そのかいがあったのか、去年は中原さんが北相地区で優勝をしました。その時の感動といったら、もう口で言い表わせないくらいのものでした。やはりここまでこれたのは、二人きりの二年生になってもくじけず、どんな辛いことにも耐えてきたからだと思います。一年生もそんなド根性の先輩達を見習って練習に励んでほしいと思います。

この一年

武内里美

練習のことと思い出せば、苦しかったことが思い出される。手にまめができてラケットが思うように振れなかったり、ノックの時、いつも最後になるとへばってしまったが、どうにかここまでやってこれた。

それなのに私は今になって先生や先輩、仲間達を裏切るようにくじけてしまった。そんな私を皆はいつもと変らず、励ましてくれた。もし、ここで私が本当に退部していたら、バドミントンと共に先輩や友達の友情も一緒に失っていたと思います。これからは、二度とくじけることのないように、一生懸命頑張りたいと思います。

部活動をやってきて

佐々木美知子

私は、十月の初めに、皆より遅れて、このバドミントン部に入りました。十月までは、学校に来て勉強をやって、サッサとあの混むバスに乗って家に帰っていたのです。なんか友達も少ないし物足りなさがあったのです。それと、お正月にはいつものようにバドミントンをしていたし、好きだったのです。これが私のバドミントン部へ入ったきっかけでした。

入部して一ヵ月目は本当に自信がなく不安ばかりだった。そしてやることときたら、素振りとハイクリヤーばかりだった。いつも皆のように早く上手に打ちたいと思っていたのです。そんな日々が続き、いつの間にか四ヵ月が経った今、どうにか皆と同じことをやれるようになり、仲良くなれました。



世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番

WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス

友枝康子

リム・スイ・〝キング・オブ・バドミントン〟

中部ジャワのカダスに生まれたリムには、ユーバー杯選手だったメガ・イナワチ、メガ・イダワチの二人の姉がいる。早くからラケットを握り、十歳ですでにいっぱしのちびっ子プレーヤーだった。一九七三年には国内ジュニア選手権に優勝。次の年には、世界男子ダブルス・チャンピオンだったチュンチュンを破り、七回連続優勝を狙う無敵のハルトノのかげで目立たぬながら、全英選手権にナショナル・チームの一員として初登場した。

一九七四年九月のアジア大会では、最強チームを送って初参加する中国勢の力を瀬踏みしようと、ハルトノを出し惜しんだインドネシアは、二戦級のリムやマルジャントを出場させた。ハルトノとの対戦を妨げられて憤満やるかたない中国勢に、リムは手も足も出なかった。

しかし、この遠征も若いリムには無駄ではなく、腕も上がり、国際舞台での経験を重ねるにつれて、持前の弾丸のようなスマッシュもうまく使いこなせるようになった。翌年マレーシアでの第3回世界選手権招待試合では優勝を果たした。

一九七六年の全英選手権では、ハルトノに決勝で敗れたが、その試合ぶりから、八度目のタイトルを目指すハルトノのために試合を「投げる」ように頼まれたのではないかと取沙汰された。

同じ年、インドのハイデラバッドでのアジア・バドミントン連盟選手権では宿敵の中国選手に翻弄された。

多くの批評家は、ハルトノと比較して、神経過敏なことと、作戦のこまかいニュアンスの理解不足から、とてもハルトノには及ばないと言っていた。

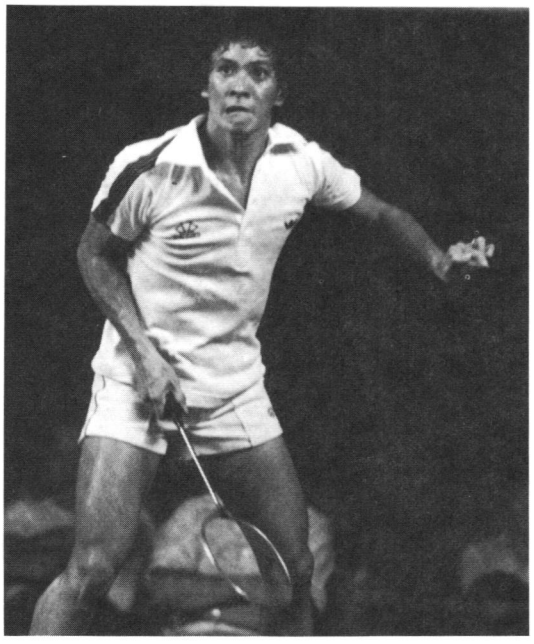
一九七七年、全英選手権、マルメの世界選手権を経験した後のリムは、しばらくの休養の後、さっそうとウェンブレーに舞い戻った。すでに8回優勝し、前チャンピオンのデルフスを準決勝で降したハルトノをストレートで破り全英選手権を獲得。今回は逆にハルトノが試合を「投げる」よう指示されたと噂された。ハルトノはどちらかといえば、過去の人であり、インドネシアは新しいチャンピオンを必要としているからである。

真偽はともかく、これで自信をつけたリムは、技も円熟したように見えた。同十二月のアジア大会では宿敵中国勢を破り金メダルを手にした。

一九七九年の全英選手権、東京におけるワールド・カップでの優勝にもかかわらず、絶頂期のハルトノの域にはまだ達していないと評する人も多い。

冷静なその表情のかげには、激しい練習の日々がある。主なトーナメント前の四か月は、週六日の練習が続く。学業もその他のことも最少限に押さえられる。あのスマッシュを打ちおろす時四フィート跳び上るためには、スピードとバネが必要だ。十年にわたるハルトノと同じ修練を積み、同じ犠牲を払おうとしている。リムの一番くつろげるのは、「モダン・ミュージック」を聴いている時だという。

（バドミントン・一九七九年五月号）



リム・スイ・キン

鋼鉄の手首を持った男

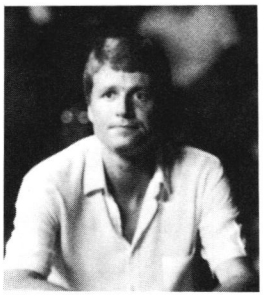
F・デルフス

銀のさじをくわえて生まれる人もいれば、鋼鉄の筋金入りの手首を持って生まれる人もいる。ミスター・バックハンドこと、デンマークのフレミング・デルフスである。

「あのすごいバックハンドの秘訣は？」「秘訣なんてないよ。偶然そうなったというだけさ」

フレミングがシャトルを追い始めたのは九歳、母親の影響もあって、毎日その土地のクラブに通い、十二の時には、ジュニア・トーナメントに出場するようになった。

彼が十五の頃、エルランド・コプスが、七度目の全英選手権をさらった時にあたり、神童ハルトノも頭角を現わし始め、スポーツ好きの若者の意欲をかきたてるには十分だった。


フレミング・デルフス

一九七七年、リム・スイ・キンを破って初の全英選手権制覇、ついでマルメの世界選手権では、イギリスのレイ・スティーブンスの仲裁で幸いにも失格を免かれるといういきさつを経て、同僚のスヴェン・プリを押さえて優勝した。

ぎりぎりにきまるネット・シヨットから、力強いオーバーヘッド・ストロークまで難のないそのテクニックは、週五日、時には一日に二度もコートに出、平均一時間半の練習によって磨き上げられたものだ。

体調を整えるための体操などのトレーニングは、好きではないし、それが役立つとは思わないので、やむをえない場合以外は止めているという。

二十七歳のデルフスは、バドミントンのオープン化には、はっきりした考えを持っている。「金額が大きければ結構だ。少なければ興味ないね」お偉いさん方の決断がぐずぐずしているのでプレーヤーたちは待ちくたびれていると思っている。彼は九月のロイヤル・アルバート・ホールでの二万ポンドの賞金のかかった試合を楽しみにしている。

バドミントンが国内No.2のスポーツとなっているデンマークでも、ユトランドのランダースで二万五千ポンドをかけたオープン・トーナメントが十一月に開かれる予定。デルフスはあと三、四年はトップ・レベルの座にいて、相応の経済的な収穫を手にしたいと思っている。その後はコーチとして、すぐれたデンマークの後継者の育成にあたるつもりでいる。

間もなく父親になるデルフス。クラブでラケットを振る母と、熱心な指導者の父の血を受けついで、たくましいチャンピオンとなるか？

（バドミントン・一九七九年八月号）

世界一楽しい歯医者さん

L・コーペン

スポーツなんてご免だわという女性もいる。汗くさい更衣室や筋肉質になったりでは、女らしさにかかわるそうな。バドミントンの妖精リーン・コーペンを見てほしいものだ。全英選手権で、望遠鏡がみんな遠くのスコアボードに向いていたと思ったら大間違い。男性ばかりか、ご婦人方も、いささかねたましさの混った感嘆の目を、軽やかに勝利への道を舞っているリーンの姿に注いでいた。

スタンドのファンのほかにも、待望のウェンブレーの勝利の力となったひとりの青年がいた。コペンハーゲンで彼女と暮しているハンス・ロプケ、決勝の近藤小織との無残な第2セットで、かたわらから助言をしていたのも、観衆の前で彼女から勝利のキスをもらったのも彼だった。

ハンス自身も一九七五年の全英選手権出場者だった。リーンは男子選手とのプレーで腕を磨いているが、その主な相手はハンスがつとめる。

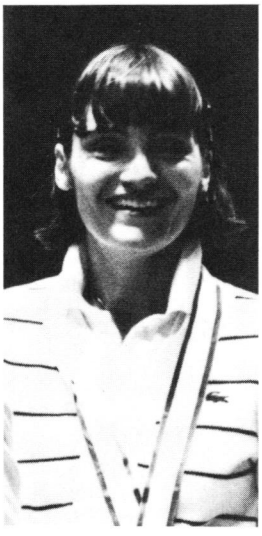
十三歳からプレーを始めたリーンは、一九七七年、ギリアン・ギルクスを破って女子シングルスで世界チャンピオンになった。

一九七七年歯科医となったリーンは二十歳までの若者のための国立の診療所に勤務のかたわら、休暇をとって海外遠征に出かける。

コペンハーゲンでは、混合ダブルスの相棒ステーン・スコーブガードなどデンマークの主力選手と同じクラブに所属、毎日一、二時間コートで練習に励むほか、週に一度か二度、家の近くの公園や湖畔を走ったり、体操をする。

彼女は歯科医師としての仕事とバドミントンを両立させたいと思っている。いつまでプレーができるだろうか？　おもしろい間はね、とリーンは言っている。

（バドミントン・一九七九年五月号）


リーン・コーペン

一つの時代が終った？

B・クライトン

第69回全英選手権大会は、もし事態が現状のまま進めば、バドミントンにおける一つの時代の幕切れを示すものになるだろう。来年はバドミントンが〝オープン〟に移行すると期待されているからである。競技者は、栄光のためのだかりでなく、報酬のためにプレーすることになる。

バドミントン界のこの大きな飛躍にあたって、二つの相反する質問が頭に浮かんでくる。なぜそんなに長くかかったのか？なぜそんなに早くこういうことになったのか？

テニス界は一九六八年に日の目を見ることができ、プロもアマチュアもしばしば一堂に会し、賞金額は上がる一方となった。

バドミントンがオープン化が提唱されながらも遅れをとっていたのは、将来、オリンピック種目となる希望とのかね合いからだった。しかし、これは一九八八年までは不可能と見られることと、オリンピックとオープン化の両立が可能という見通しになり、オープン化の先鋒であったイギリスその他のヨーロッパ諸国の動きに拍車がかかったのだった。

デンマークの世界チャンピオン、フレミング・デルフスは、多くのプレーヤーの気持をこう伝えていた。「長年話し合ってきたけれども、プレーヤーはもう待ち切れない。ほかのスポーツで金をかせいでいるのを見てるといらいらするな。デンマークでは、バドミントンはフットボールの次に人気があって、五五〇万の人口の中、二〇万人がやってるんだ。団体はぼくらのおかげでもうけているのに、こっちには何もきやしない」こういう意見を踏まえて、ヨーロッパの各団体がオープン化の原動力となっていた。

第二の質問については、どうか？

一年ほど前、バドミントン界は分裂の危機にさらされた。台湾の代表権と中国の加入をめぐってのWBFの設立である。これに加えて、IBFがオープン化を決めないなら、独自にスポンサーをつけて、プロ・トーナメントを行なうという、ヨーロッパの選手を中心とする選手会の発表があった。

そして昨年五月のニュージーランドでのIBF総会でオープン化がとり上げられ、今年のジャカルタでの総会で批准されるのを条件に、一九七九―八〇年のシーズンに開始することが議決された。

現状では、来年の全英選手権で実現と見られている。

選手たちは昨年のテニスのビョルン・ボルグのように七〇万ドルをかき集めるようなことはないにしても、せめてその働きに応じたものくらいは持ち帰ることができるだろう。

（一九七九年全英選手権プログラム）

イングランド・バドミントン協会の組織と活動

一八九三年設立、イングランドにおけるバドミントンの指導的機関であり、国際バドミントン連盟に加入している。後援者は、バドミントンの名の由来となった別荘の主ビューフォート公爵。

競技の振興全般、統一ルールの採用、規定に関する諸問題の決定、加入団体の公認規定の遵守の確保などを目的としている。

各州を代表する41団体から成り、各団体及びそのメンバーは協会に年会費を納めている。

協会の業務は約75名の評議会によって管理される。評議会は少なくとも年3回開かれ、イングランドにおける競技全般の方針立案を行なう。その実施には評議会の任命する次の常任委員会があたる。

①緊急委員会＝実行委員会が開かれていない期間のすべての緊急事項を扱う。

②実行委員会＝最も重要な委員会で他の委員会の議事録の採否、修正などを行なう。アマチュア規定違反その他の懲罰、選定委員の任命にもあたる。

③財務委員会＝協会の財務管理、計画を担当する。

④行事委員会＝国内外における国際競技開催の準備を行なう。

⑤コーチ及び技術委員会＝コーチとトレーニング及びナショナル・シニア・チームに入っていない若い選手の養成と選定を担当。競技場及び設備などの技術事項も扱う。

⑥発展・計画委員会＝IBFやEBJ関係及びラジオ、テレビなど広報を担当。長期計画の責任を負う。いわばバドミントン・シンクタンクの役割をしている。

事務局は、こうした評議会や委員会の決定を、きめられたシステムによって実行に移している。多岐にわたる事務局の業務は多忙で、一日平均75通から100通の手紙を処理し、事務経費だけでも年8千ポンドに及んでいる。

このほかにも、名誉職の立場で援助を仰いでいる役員が多勢協会を支えている。

全英選手権は世界中のトッププレーヤーたちのメッカであり、政府レベルでのさまざまな意見も聞かれるが、協会は一般の人人のものであり、クラブや団体を通して人々の要望をその方針に反映させるように努めている。

（バドミントン・一九七九年四月号）



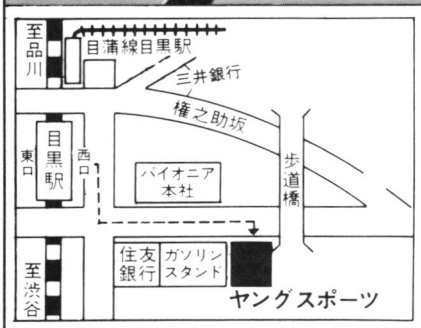
Liem Swie King

1978年度全英選手権

男子シングル優勝

大量入荷!!

'79バドミントンラケットは カールトンだ!!



ヤングスポーツ

〒153 東京都目黒区目黒1-3-16 目黒駅西口1分 ☎491-7822

TOKYO LETTER

by Miwako Wakazono & Carolyn Matsuura

June in Japan is synonymous with "the rainy season" and we are faced with damp, sticky and generally unpleasant weather daily.

The cultivation of rice depends on this rain so it must also be considered a blessing from the gods.

We have had very little rain this year, however. Summer seems to have come one month early and it has been hot and dry day after day.

The weather aside, from June 23rd, the All Japan Business and Industry GroupTournament was held in Okayama City and Kurashiki City for five days.

Each company or enterprise is regarded as one unit in this tournament. There were about four hundred men and women competing in six singles and doubles events.

In the men's group, S. Toganoo, Y. Iino, T. Tsuji, and H. Hasegawa won as expected. They represented Yonex in this tournament and are all members of Japan's national team as well.

In the women's group, A. Tokuda and M. Takada representing Suntory went on to victory by defeating Kawasaki Racket's H. Yuki and S. Kondo.

This game was televised nationally and the Okayama Prefectural Gymnasium was filled to capacity.

In the men's doubles, top-seeded S. Toganoo and Y. Iino were defeated quickly and their dream of winning this tournament for the fifth consecutive time was shattered.

The finals found N. Ikeda and M. Ozaki pitted against their own teammates, M. Tsuchida and M. Tadokoro.

Veteran doubles player N. Ikeda skillfully let his partner, M. Ozaki, use his smash to their advantage and they went on to win their first victory.

The women's doubles matches all went according to our predictions.

In the finals, again, Suntory's A. Tokuda and M. Takada competed against their teammates M. Tani and S. Akimoto. With overwhelming power, A. Tokuda and M. Takada retained their championship for the third consecutive time.

Last year's champion, M. Tsuchida, was top-seeded in the men's singles.

Japan's champion, K. Zeniya, lost to Tsuji in last year's tournament and was not able to place even among the best eight.

This year, however, he was able to get his revenge in the semifinals against T. Tsuji.

The finals, then, was a battle between K. Zeniya and M. Tsuchida.

These two inevitably compete against each other for the championship in any big tournament held in Japan.

Having just returned from the Silver Bowl, K. Zeniya was in top condition.

He dropped the first game after the setting but overwhelmed M. Tsuchida in the second and third game and regained the championship.

Due to Y. Yonekura's unexpected tenacity, the women's singles turned out to be far more interesting than we had expected.

We firmly believed that S. Kondo and A. Tokuda would battle against each other in the finals.

In the semifinals, however, Y. Yonekura won a straight victory over S. Kondo as did H. Yuki over A. Tokuda.

Okayama is the hometown of H. Yuki and S. Kondo. H. Yuki, flooded with and encouraged by the cheering of the local people, came from behind to win a 2-1 victory over Y. Yonekura. She seemed very satisfied indeed to have won the championship on her home ground.

読者と編集者

高齢者のクラブ

新居浜市バドミントン協会の副会長・越智勤也氏より次のようなお便りが当編集部に届きましたのでご紹介いたします。

「当地新居浜市におきまして先般〝高齢者のバドミントンクラブ〟が発足いたしました。

新居浜市バドミントン協会傘下には、すでに実業団、高校のほかクラブ対抗、家庭婦人連盟などがあり、市民体育館の利用率も80%に達し、市民バドミントン大会は、コンスタントに年間3回（年齢別、クラス別、市民体育祭）開催しており、通算44回目が近日実施されます。

このようにバドミントンはまさに、インドア競技の主流をなしております。」

次に掲げるのは、同封されておりました昭和54年6月8日の愛媛新聞の記事です。

スポーツを通しての健康づくりが全国各地で盛んとなっているが、新居浜市では6日、高齢者のバドミントンクラブが誕生した。同市バドミントン協会（片上進会長）の話では、高齢者ばかりのバドミントンクラブが発足したのは県下では初めてで、全国的にも珍しいという。これを契機に、今後県下各地で高齢者クラブ結成の動きが出てくるのではないかと期待されている。

クラブの名前は、さつきバドミントンクラブ（永易明会長、55人）で、同協会指導のもと、バドミントン経験者らが中心になり、4月から結成準備を進めていた。スポーツを通じての体力づくりで成人病、老化防止を—とのネライで市民に参加を呼びかけ、入会対象者も初心者で、男子50歳以上、女子40歳以上と高齢者に限定した。

同日は、趣旨に賛同して同クラブに加入した男子20人、女子35人が同市東雲町の市民体育館に集まり、午後6時半から結成式を行い、正式に発足。高齢者クラブとして、同協会にも正式加盟した。同クラブでは今後、同協会や同市スポーツ指導員のコーチで、週2回、3時間ずつ市民体育館を利用して練習を続けていくことにしている。

バドミントンは、年齢に関係なく親子や夫婦で気軽に楽しめることから、同市では最も盛んに行われているスポーツ。基本的な指導を望む市民の声も多いため、同市教委は、15日から一カ月間毎週水、金曜日に、未経験者を対象にバドミントンを指導する中央健康教室の開講を計画している。受講対象者も、同クラブと同じく男子50歳以上、女子40歳以上としており、同クラブでは、この教室の卒業生らにも広くクラブ参加を呼びかけ組織を拡大し、さらに、全県下にも高齢者スポーツの輪を広げていくことにしている。

また、同協会に加盟したとはいえ、年齢も高く公式戦出場の実力をつけるのは難しいため、高齢者同士の独自の大会や男女混合試合などの開催を計画しており、同クラブ員らは、大会に備えて結成式後、早速、ラケットを握り練習に汗を流していた。

新刊のご案内

本誌に10カ月にわたって連載いたしました「スターティング・バドミントン」（ジュディ・ハッシュマン著、後藤忠弘訳）は、栂野尾昌一・悦子夫妻の協力を得て、単行本化を進めています。当初7月下旬刊行予定でしたが、写真の選定、訳注をつける作業などでやや遅れています。9月刊行をめざし馬力をかけていますので、もうしばらくお待ちください。

また左記のとおり、予約受付を開始いたしましたので、本書をご希望の方は、お早目にお申し込みください。

予約受付開始＝9月下旬刊行

スターティング・バドミントン

ジュディ・ハッシュマン、C・ジョーンズ著

後藤忠弘訳

全英選手権優勝シングルス10回、ダブルス7回という驚くべき史上最強の女子プレーヤー＝ジュディ・ハッシュマン夫人が、初心者のために、わかりやすく基本から説き明かしたのが本書です。

どんなスポーツでも基礎をおろそかにしては上達は望めません。ハッシュマン夫人は、その大切な基礎を、具体的な練習方法を紹介しながら、丁寧に説明してくれます。

これからバドミントンを始めようという人はもちろん、もう一度基礎から見直したい人にも最適のテキストです。

「スターティング・バドミントン」は定価1200円ですが、8月31日（消印有効）までに予約された方は、1000円に割り引きいたします。ご希望の方は、本誌巻末の振替用紙通信欄の「その他」の欄に「スターティング・バドミントン」と明記のうえ、代金に送料（一冊160円、二冊200円、三冊240円、四冊～五冊280円、六冊～八冊600円均一、九冊～十二冊700円均一、十三冊以上800円均一）を加えて、お近くの郵便局からお申し込みください。発行と同時にお送りいたします。

バドミントン界編集部

世界のカールトン

carlton

カールトンは水鳥？



●PHOTO・左より…
トーナメント・プラス，トーナメント，インターナショナル，クラブ



水鳥球

トーナメント・プラス

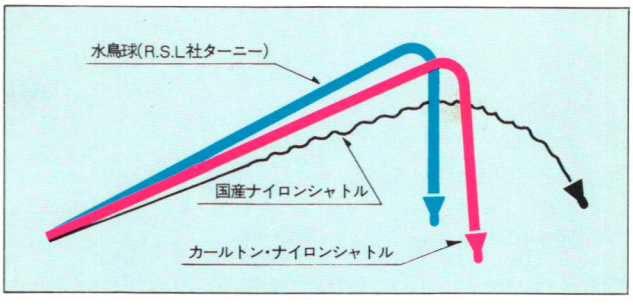
トーナメント・プラス
1ダース￥3,600(1個￥300)
日本バドミントン協会検定合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球
常に世界をリードしてきたカールトンのニューモデルです。正確なフライト，すばやいターン・オーバー，そしてフェザーのフィーリング。トーナメント・プラスは確かにプラスαを感じさせるシャトルコックです。

トーナメント
1ダース￥3,300(1個￥280)
日本バドミントン協会検定合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球
世界一の消費量を誇るナイロン・シャトルのベストセラー。水鳥球の数倍の耐久性をもち，しかも，最も飛び方が似ていると評価されています。この絶大な定評は他の追従を許しません。

インターナショナル
1ダース￥2,800(1個￥240)
日本バドミントン協会検定合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球
国産品とは比較にならないほど優れた性能をもち，しかも値段は国産品と変りません。耐久性はトーナメントよりも丈夫です。初・中級者のための試合・練習球としてどうぞ。

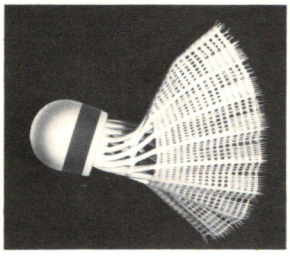
クラブ（練習球）1ダース￥2,400(1個￥200)

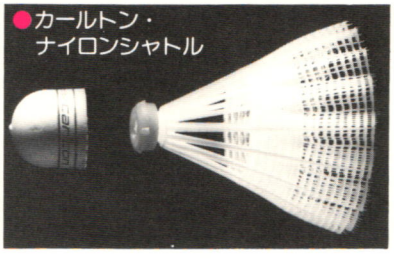
昭和54年度より，ナイロンシャトルは中学校大会使用球になりました。



1 Flight（ハイクリアー時に於る飛行曲線）

カールトンの目標は，水鳥球の原点といわれる英国R.S.L社のターニー・モデルです。垂直に落下してこそシャトルコック。これこそ，カールトンが追求し続けている基本テーマです。右の図を見れば，なぜカールトンが世界中のプレーヤーに使用され，他の追従を許さないか理解していただけるでしょう。



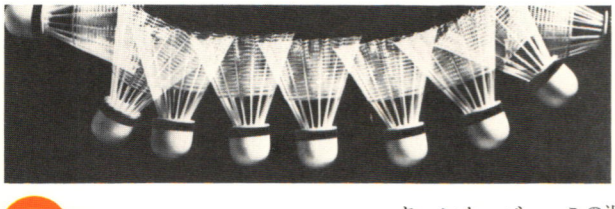


●カールトン・ナイロンシャトル

2 Durability（耐久性）

丈夫と言われるナイロンシャトルをさらに一歩進めたのがカールトンです。回転機構の採用によりネジレをなくし，ヘッドもこわれやすいコルクからP.V.Cに変える事によって耐久性を更にアップしました。
（寒冷時に使用される時は，お湯で暖めてからご使用下さい。耐久性がグーンとアップします。）

●国産ナイロンシャトル



●カールトン・ナイロンシャトル



3 Turnover
（ネットプレー時の復元性）

ターンオーバー。この返りの速さこそカールトンの真髄です。ごらんの通り，国産シャトルと比べ違いがひと目でわかります。正確なショットを生む素早いターンオーバーこそ，微妙なタッチが要求されるバドミントンには欠く事のできない大事な要素です。

総輸入元　メトロレジャー株式会社　東京都千代田区外神田5-6-4 TEL.(03)833－3661代



いま、世界は95gに興奮する。

また、ヨネックスならではのクリエイティブなラケットが誕生しました。世界で最軽量。なんと、100g以下のフルカーボンシャフトラケット、カーボネックス8です。フレームは特殊合金アルミ、シャフトはフルカーボン。強烈なパワーを秘めながらこの軽さは、まさに世界新。バドミントンプレイが二歩も三歩も前進します。このヒーローの登場で。

新発売 ラケット重量極限の壁を遂に破った
FULL CARBON SHAFT RACKET

B-8500 Carbonex8

カーボネックス・エイト(特殊アルミ合金フレーム・フルカーボンシャフト)…¥8,800
(イエロー・オレンジ・グリーン)・重量表示・1-U(100g～95g)・2-U(95g～90g)

YONEX®